

Bulletin for Tokyo Metropolitan University Alumni

2013年（平成25年）

No. 9



首都大学東京同窓会・会報

巻頭言「さらなる同窓会の発展を願って」… 会長代行・副会長 加藤 充子 ……	1
大学祭・みやこ祭で同窓会の記念イベントが開催されました ……	1
就任のご挨拶 …… 公立大学法人 首都大学東京 理事長 川淵 三郎 ……	2
故高橋 晃会長を偲ぶ ……	3
亡き高橋 晃会長のご仏前に謹んで哀悼の真を捧げます …… 野原 剛 ……	3
故高橋会長の入学式挨拶 ……	3
愛すべき社長 高橋さん—医療のさらなる発展への遺志を繋いで …… 大島 英彦 ……	4
前同窓会長 高橋 晃君を偲んで …… 内田 武 ……	4
故高橋 晃前八畳会会長追悼文 …… 玉城 美琴 ……	5
同窓生はいま ……	6
思い出 …… 高村多賀子 ……	6
パソコン家庭教師を開業 …… 海老塚良吉 ……	6
工学系への女性進出の兆し …… 山本那智子 ……	7
恩返し为社会貢献活動 …… 千代鳥・モーミンウッディン ……	7
野原さんとの出会い—そのボランティア精神に感銘を覚え …… 包 聯群 ……	8
府大戦4年ぶりの勝利! …… 玉井 元健 ……	8
特別寄稿「中国で学びながらの会社経営」 …… 高部 明敏 ……	9
第一回プロジェクト奨励賞が授与されました ……	10
八雲クラブで会いましょう …… 丑山左千男 ……	10
東日本大震災に向き合う同窓生の皆さん ……	11
復興事業に取り組んで …… 塚原 信孝 ……	11
その後の桑畑書店—復興 いまだ遠く …… 桑畑 真一 ……	11
震災復興まちづくり—住民ワークショップを支援する …… 佐藤 俊一 ……	11
消息をご存知の方お知らせください ……	12
南三陸ボランティアに参加して …… 神山 直樹、須藤 悠太 ……	12
母校はいま ……	14
キャンパス紹介—荒川キャンパス ……	19
つなぐ研究室紹介シリーズ 小笠原研究会 …… 首都大学東京教授 可知 直毅 ……	21
大学事務局からのご報告 …… 大学事務局・広報担当 栗山 直子 ……	22
学芸員養成課程展示室・実習室紹介 …… 小林 加奈、村田 昌則 ……	23
7年目の寄付講義 ……	24
「表紙のことば」“The way to the…” …… 岩崎 慎吾 ……	24
支部だより 北海道支部 関西支部 宮崎県でのミニ同窓会 ……	25
新規参加評議員のご紹介 ……	26
同窓会事務局からのお知らせ ……	27
名誉教授の称号を授与された先生方 ……	28
第9回評議員会議事録 ……	29
第9回総会議事録 ……	30
寄付金受領のお礼 ……	31
収支改善委員会のご報告とお願い ……	31
寄付者芳名一覧 …… 31～34	31～34
司法試験74校中6位で合格率は40%を超える ……	34
訃報 ……	35
近藤忠孝さんのご逝去を悼む …… 松見 豊和 ……	35
自費出版書のご紹介 ……	36
TMU PLAZA …… 36～41	36～41
八雲三六会(36) 人文二期の会(36) Wien 大学で講演会開催(37) バレーボール部同窓会(38)	
硬式庭球部例会(39) 七機会(39) 囲碁部・想雲会(40) 物理学科4期の会(40)	
MeC先輩と在校生との交流会(41) 東急八雲会(41) ふかさわ会例会(41)	
首都大学東京同窓会・会計報告 ……	42
TDS(榎)都立大学同窓会サービス) 会計報告 ……	43
2014年度首都大学東京同窓会 総会・新年会 ……	表4



写真上から南大沢キャンパス
1号館・光の塔
日野キャンパス
科学技術交流施設
荒川キャンパス
図書館棟



さらなる同窓会の発展を願って

会長代行 副会長 加藤 充子

先日、7月21日の参議院議員選挙では、与党側の自民党、公明党が議席の大半を獲得し、衆議院、参議院のいわゆる「ねじれ」が解消されて今後3年間は安定した政局の展開が期待される。世界の数多くある国々の中の日本と言う国家の社会的および対外的状況を作り出して行く第一の条件が確立された訳だが、それは私ども首都大学東京の同窓生達の生活にどのように波及してくるのだろうか、しっかりと目を見開き、確認する姿勢が必要だと思う。

さて、すぐる3月25日の東京国際フォーラムにおける卒業式で、学部卒業生1,574名、院修了者809名を社会に送り出し、同窓会員数も6万人に迫ろうとしている。旧都立大学の化学科・第15期の卒業生である気鋭の高橋晃会長のもと、我々理事会のメンバーは、所属する各委員会の活動を如何に充実させて行こうか、と議論を重ねている最中、4月21日に会長は急逝されてしまった。ご体調についてはご本人が一番良く分っておられたのだろうが、強い責任感をもって、卒業式、入学式の挨拶を、学生、父母、来賓、教職員などの参列者に向けて述べてくださった。そのご立派な姿勢に深く感銘し、皆みなが心に留め、哀悼の意を捧げたい。

故会長が目標とされた、会の三本の矢とも呼べるスローガンは、一、学生への支援、二、大学との協働、三、卒業生相互の交流、であり、これらは順調に成果をあげてきている。

今年4月には大学理事長が交代され、元日本サッカー協会会長の川淵三郎氏が新たに着任された。新聞インタビューに答えて、川淵氏は「首都大学東京が2005年に都立大学など四大学を再編、統合した都の公立大学だという事実は、受験生、在学生、卒業生またその保護者達以外にはまだまだ知られていないので、広報等を通じて広く社会に認知度を高めて行かなくてはならない。」と語って居られた。戦後新制大学として設立された都立大学の名称を変更してしまったのは、他大学との競争において大変不利であり、同窓会としても大学の知名度を高めるための一層の努力が必要である。

臨時会報8号で呼び掛けた維持寄付、目的寄付については、合計800余名の方々にご協力いただき、母校、同窓会活動に関心を持ち続けてくださる会員の皆さまの温かいお気持ちに深く感謝申し上げます。今後、同窓生の絆を大切にし、同窓会がより大きく発展するよう尽力したいと思います。

大学祭・みやこ祭で同窓会の記念イベントが開催されました

11月3日文化の日、紅葉美しい南大沢キャンパスでの大学祭みやこ祭に併せ、記念イベント「公開講演会・オープンキャンパス・懇親パーティー」が開催されました。講演会では川淵三郎理事長が「夢があるから強くなる」と題し三百余名の聴衆を前にサッカー界でのご経験に基づき、前例にとらわれず、高い理念を掲げて夢を追求して来た姿勢を熱く、時にユーモアを交えて語られました。質疑応答では首都大学東京の新しい拍手に包まれました。オープンキャンパスではテントの出店が立ち並ぶ大学祭の懐かしい雰囲気を楽しみつつ、91年館学芸員養成資料室では地理環境学や日本史学、考古学、社会人類学、芸術学などの展示を通して各分野の最新研究の話題に触れました。理工学系では30以上の研究室、実験施設、飼育施設、標本館等が公開され、教員や大学院生から直接説明をうけ、真剣に討論する場面も見受けられました。国際交流会館レストランでの懇親パーティーでは、川淵理事長、高橋前理事長もご来賓として列席され、同窓生百数十名はご来賓教職員、現役応援団員、チャリダーらとともに、実に楽しく懐かしいひと時を過ごしました。

加藤 充子
かとう みちこ
都9期・経済卒。
会長代行。副会長。
広報委員会・委員長。

就任のご挨拶

公立大学法人首都大学東京 理事 川淵 三郎



川淵 三郎 理事長

2013年4月に公立大学法人首都大学東京理事長に就任した川淵三郎です。

これまでの東京都教育委員の経験、17年間のJリーグのチェアマンや日本サッカー協会会長としての組織運営の経験を、首都大学東京の発展に活かしてほしいとの話があり、自分としても新たなフィールドに挑戦する気持ちで引き受けました。関係者の皆様の協力を得て、本学の発展に邁進してまいります。

さて、私がサッカーを通じて得た経験の中での話をいたします。日本のプロサッカーリーグであるJリーグは今からちょうど20年前にスタートしました。スタートする更に5年前になります。トップチームを持つ大企業の幹部はプロ化に猛反対しました。成功するわけがない、赤字の垂れ流しをする会社を設立してどうするのか、前例がないといわれました。当時の日本サッカーは、実力もない、スタジアムもない、環境も整っていない

など、反対も当然のことでしたが、その上、時期尚早と協会の幹部からも言われました。私はこのときに、「時期尚早という人は、百年経っても時期尚早という、前例がないという人は、二百年経っても前例がないという」と話しました。

一方、その背後で、綿密にヨーロッパのサッカーを調査し、課題を抽出して対策を検討し、理論武装することにより、大きな高い壁を乗り越え、Jリーグをスタートさせました。その結果、スタートから3年後28年ぶりにオリンピック出場を果たし、夢のまた夢といわれたワールドカップにも5年後出場し、さらに、ワールドカップの日韓共同開催も実現しました。もし、当時、時期尚早、前例がないと恐れをなして挑戦をしなかったら、マンチェスターユナイテッドの香川選手、インテルの長友選手など20人もヨーロッパの一流クラブで活躍する選手を輩出することは難しかったと考えます。

現代の日本社会は、少子高齢化、人口減少、エネルギー問題、環境保全、産業構造、防災等の課題が山積しています。近い将来、これまで経験したことのない社会・経済環境の変化を迎えることは必至です。人口や産業が集中している東京都にあって、日本が抱えるそれら多くの課題をしっかりと見据えて取り組むことが、本学の使命でもあります。

そして、これらの課題に対応しようとするとき、必ず時期尚早、前例がないという高い壁が目の前に立ちまわります。これらを打破するために、教職員が一丸となつて、しっかりと理論武装し、前例を壊し、そして新しい前例を作ってまいります。と思えます。

公立大学として、他の教育・研究機関や産業界、自治体などと連携して研究に打ち込み、その成果を広く都民に還元する。さらに、それらを国内外に発信することで広く国際社会に貢献し、本学の存在価値を高めていきたいと考えています。

終わりになりますが、同窓会の皆様のご指導ご鞭撻をお願いするとともに、同窓会の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

川淵 三郎理事長のプロフィール

1961年 3月 早稲田大学卒業
1961年 4月 古河電工(株)入社
1991年 11月 古河電工(株)退社
サッカー歴等
古河電工サッカー部監督。ロサンゼルスオリンピック日本代表チーム監督。
(財)日本プロサッカーリーグチェアマン。
(財)日本サッカー協会キャプテン等を歴任。
2011年 東京都教育委員会委員。
2013年 東京2020年オリンピック・パラリンピック招致委員会評議会副会長。
2013年 3月 公立大学法人首都大学東京理事長就任

故高橋 晃会長を偲ぶ



故高橋 晃会長

亡き高橋 晃会長のご仏前に

謹んで哀悼の真を捧げます

野原 剛 (都4・理・化学)

広報委員会・副委員長

貴兄は2011年に同窓会の会長に就任され、会の運営に持ち前のバイタリティーで精力的に取り組んでこられました。生来の明るいご性格と細かな気配り、丁寧な物腰に惚れ込んで居りましただけに、同窓会が大学とともにこれからはますます発展していこうという矢先に急逝され、誠に残念でなりません。

4月の入学式には体調のお悪い中を出席され、笑顔で新入生に対して同窓会のアピールと入学のお祝いのご挨拶をされました。後になって考えますと、これもお身体に障ったのではと、悔やまれてなりません。病床で書かれた臨時会報8号の巻頭言は遺稿となっていました。

故高橋会長の入学式挨拶
(2013年4月7日)
同窓会長の高橋 晃でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

ちよつと声がかれていましたね。

実は、私、現在 医療関係の仕事をしているにも関わらず、間質性肺炎になってしまいましたね、少々息が切れませんが、皆様のお聞き苦しいかも知れませんが、皆さんの応援とお祝いに駆けつけましたので、ご了承ください。

まず、皆さん入学おめでとうございませう。心からのお祝いを申し上げます。

大変な難関を突破されて見事に入学された皆さんは、本当に自信と誇りを持っていただいで、私はよいと思います。

また、同時に、皆さんが一人でごここまでできたわけではないのです。これまで育ててくれたご両親、あるいはサポートしてくれた関係者の皆さんに是非、感謝の意を表していただきたいと思ひます。

(中略)

ぜひ、この学生時代、本当に大事な時期ですから、手を抜かないように、勉学はもちろん遊びも一生懸命やってください。これが必ず社会へ出た時のベースになって、この4年間が何十年に効いてきますからね。

ぜひ、油断しないように頑張ってください。

さて、ここで同窓会について一寸お話をさせていただきます。

本学の卒業生は、6万人を超える数

を擁しております。

各界で大変多くの方が活躍されているという状況でございます。

私は、昨年、同窓会長に就任いたしました、その時に、同窓会は一体どのような目標を持ち、どのような存在であるべきか、いろいろ考えをめぐらしました。

結論は、やはり、若い未来を担う学生諸君に対する支援を、第一義に考えるべきと言う結論に達し、現在運営をしております。

同窓会は、実社会で大変多くの経験を積んだ皆さんの集まりですから、実社会の現状、課題、あるいは将来について、若い皆さんにどのように適切に伝えてゆくの、また皆さんとともに考え、行動してゆくの、これが同窓会にとって、大変重要な役割であると考えております。

(中略)

このように、同窓会は皆さんの身近な存在として活動しております。

是非、皆さんも、早く、入会していただいで、世代を超えた繋がりができることよって、必ず、皆さんの人生に豊かな、実りある人生、自分を切り開いてゆけることができるようになることを確信しております。

皆様には、ぜひ、同窓会組織にも関心を持っていただき、そして、共に歩んでゆきましょう。

簡単ではございますけれど、私の挨拶に代えさせていただきます。

本日は、おめでとうございませう。

故高橋

晃氏の
プロフィール

1967年3月東京都立大
理学部・化学科卒。同年
4月(株)仁丹テルモ(現テル
モ(株))入社。91年取締役
'01年取締役副社長。'04年取
締役社長。'10年取締役顧問。
公職 '02年(財)テルモ科学
技術財団理事長。
研究歴 '94年工学博士。
博士論文「中空糸型人工肺お
よび新規な人工肺
用膜素材の開発」

合掌

体育系を装いながら、極めて緻密な文化的感覚をも持った人で、美人画を描き、ワインへの蘊蓄、旺盛な読書欲、学研面では工学博士号を取得する等、意外性を持った多趣味の君は、あまり多くを語らず、時に尋ねると言葉少なげに応え、内部に何時も熱いものを持っていたように思います。

最高の治療を受けながら、我が身に迫りくる病を感じ、医療メーカーのトップとして、専門家として無念さがあったと思わずにはおられませんが、入院中も感染症を気遣って、何事にも慎重な医師と体力気力の衰退との戦に何とかしなければと闘志を燃やし、活動を続けた柔道愛好家の心意気を感じています。

経営のトップにも携わり、母校の同窓会長、柔道部OB会長として、後輩たちを大切に、時に叱咤激励し、自身の社会的地位を振りかざすことも無く、愛され、尊敬される平明の感覚の君の人生は、早く逝き過ぎたことを除き、大成功ではないかと思えます。

故高橋晃前八畳会会長追悼文

首都大学東京柔道部

玉城 美琴(首都大 放射・4年)

私が初めて高橋晃前八畳会会長とお会いしたのは、2010年の府大戦でした。高橋様は、八畳会会長と

して首都大学東京柔道部の激励に大阪まで駆けつけてくださり、本選に出場する者をはじめ、部員達にお声をかけてくださいました。当時まだ大学一年生だった私にもお声をかけてくださり、嬉しかったことを覚えて

います。高橋様は府大戦の他に東京学生柔道大会、大学祭にもお越しいただき、柔道部の活動を見守ってくださいました。私は八畳会と柔道部との連絡係となり、八畳会幹事会に出席するようにになりました。幹事会では、高橋様を中心として柔道部への支援策や八畳会と柔道部との交流について議論されていました。高橋様は「世代を超えた繋がりをづくり、結びつきを強めていくことで、柔道部や八畳会を活性化していきたい」ということを私へ説いてくださいました。このようなご指導を励みとし、部員一同稽古に邁進いたしました。

今年三月、八畳会有志により行われました高橋宏前首都大学東京理事長送別会に、高橋様のご推薦で現役柔道部員代表として参加させていただきました。高橋様の広い人脈により、山下泰裕氏(ロス五輪柔道男子無差別級金メダリスト)、瀧本誠氏(シドニー五輪柔道男子81kg級金メダリスト)の両氏をご参加され、素晴らしい会となりました。高橋様は私に柔道界のトップスターお二方とお話する貴重な機会を与えてくださ

り、忘れられない時間を過ごすことができず。その以前から、体調を崩されているとお聞きしておりましたが、その会ではお食事もしつかりとられ、順調に回復されているように感じておりました。そのため、ご逝去の知らせを受け、驚きを隠せませんでした。今年、柔道部は7名の新入部員を迎え、活気ある稽古を行っており、これも一重に高橋様の親身なるご指導の賜物であります。長年にわたる柔道部へのご支援に感謝するとともに、心より哀悼の意を表します。(編集注：八畳会は柔道部OB会)



2011年12月8日第8回評議員会
会長選任後の懇親会での会長挨拶



2013年3月首都大学東京の卒業式では学部代表の成績優秀者に表彰状、記念品を授与



2013年1月26日第9回総会・新年会が南大沢キャンパスで開催され、来賓の大阪府立大学同窓会山田幹事長と歓談



2012年11月3日のみやこ祭では柔道部(八畳会)の模擬店で、現役、OBと歓談

同窓生はいま

思い出

高村多賀子（都3・理・数学）

都立大学理学部数学科を卒業後のある年、私は都立大学のロシア語の初級のクラスにもぐり込んで、ロシア語の授業を受けていた。その時の授業内容はロシア語の初級の文法であった。ところが、四月の初めには二十人ほどいた受講生が、一人減り二人減りして徐々に減少していったのである。

夏休みを過ぎてはじめての教室に行ってみると、なんと私一人になっていたので大変びっくりしたが、もぐりの受講生であった私は講師の先生に初めてもぐりであったことをお詫びして、「もうこの授業はやめて下さっても止むを得ません」と申し上げたところ、寛大なこの先生は「この初級のクラスの次に中級のクラスの授業があるので、この初級の授業は続けてやってあげます」とおっしゃって下さったが、何というご好意だろうかと大変有難く思った。それからは一対一の実に贅沢な授業

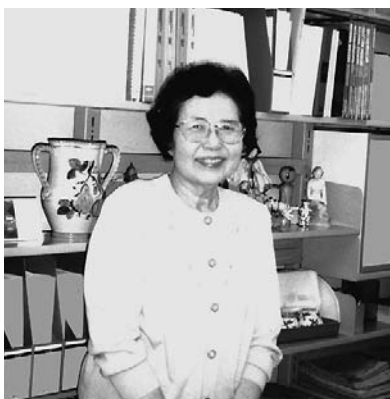
海老塚良吉

えびづかりようきち
神奈川県立横浜平沼高校卒業・73年都立大学工学部建築学科卒業・76年都立大学大学院建築研究科博士課程中退・同年 住宅・都市整備公団入社・03年都市基盤整備公団総合研究所技術センター・10年都市再生機構定年退職・13年2月 パソコン家庭教師 開業 現在に至る。

パソコン家庭教師を開業

海老塚良吉（都21・院工・建築）

が始まった。まだロシア語の文法は続いていったが、私は一生懸命にロシア語の勉強に励み色々質問をしていった。その頃ロシアはソヴィエト社会主義共和国連邦といわれ、これをCCCPと略記するのだということも教えられた。初級の文法は一応終わって秋には「賭（賭）」というチェーホフの短編小説をテキストに用い毎回声に出して読み、解釈を付けていった。お蔭様で、私はロシア語の文献を人前で声に出して読むことが平気になったようである。貴重なご指導をいただいたことは本当に有難いことであって、生涯私は感謝の念を忘れてはならないと思っている。

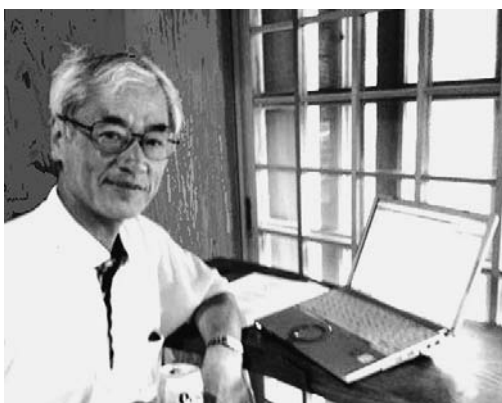


3年余前に都市再生機構を定年退職して、在職中に出版した「NPOが豊かにする住宅事業―民間非営利組織による住宅事業―日本の実態と欧米の比較」(筒井書房、2009年、法政大学人間社会研究科の博士論文を編集)を活用して、各地の住民による住宅事業を応援して、それを業務にできないかと活動してきましたが、相談は数多く受けるものの私の定年後の仕事には、なかなか結びつきません。私が主宰する研究会で、このような住民による住宅事業の事例を数年間で40〜50事例は報告いただいて、現在も、研究会で取り上げ、相談も受けているのですが、報酬として結びつけることが困難です。実はこのような住宅事業をまとめるには、プロジェクト・マネージャーの役割がもつとも重要なのですが、日本ではこの職能が一般には理解されないので、無料の相談業務になりがちなのです。

そこで考えたのが、地元船橋を中心に、高齢者にパソコンを教える仕事です。大手家電店はパソコンの購入者に、家庭訪問してパソコンのセットアップやネット設定、印刷機との接続サービスを行っています

が、比較的が高額となり、その半分で行っても十分な報酬になることが2013年1月から2月にかけて、下請け仕事として実際に30件あまりの家庭に訪問し、わかりました。

私の知識で本当に実務ができるのが不安でしたが、電話サービスなどでわかりにくい点を確かめれば、ひとつとして設定ができなかった家はありませんでした。パソコン家庭教師やパソコン教室を通じて、地元の高齢者との交流を3月以降行っていますが、ほちほちと依頼者が増えて、このような高齢者が多く住んでいる老朽化した地域に入り込むことができつつあります。ある程度の信用を得たところで、地域の高齢者住宅問題のアドバイスを行い、低所得者向け高齢者住宅事業を地元で実践したいと考えています。



工学系への女性進出の兆し

山本那智子(都24・工学・建築)

山本那智子
やまもと なちこ
愛知県立時習館高校卒。
ゲンスラー&アソシエイツ
インターナショナルLtd.日本
代表。81年より日米両国で
建築・インテリア設計に関
与。05年ゲンスラー東京事
務所代表就任を機に24年ぶ
りに帰国。



千代鳥・モーミンウッディン
ちようどり
(都24・工化院)工学博士号
取得。(株)チヨウドリソフ
トウェアサービス代表取
締役社長。特定非営利活動
法人 ちきゅう市民クラブ
会長。インド生まれ、バン
グラーデシユ育ち、現在は日
本国籍。



1972年学生運動の名残ある
中、工学部建築学科に私を含め女性
3人、土木学科に女性1人が入学し、
学部創設以来はじめて女性が4人と
いう、工学系への女性進出の兆しが
見えはじめた年でした。在学中は、
自転車部に所属。最初の年の女性部
員は私1人でしたが、天然、体育会
系の私は最高に楽しく過ごし、毎
年春、夏の自転車部合宿は忘れがた
い思い出です。

1976年第2次オイルショック
の年に卒業、最初に入社した会社は
半年で閉鎖、次に入ったアトリエ系
建築事務所では給料遅延のため退
社、建築学科の先輩のご配慮で3社
目に東急設計コンサルタント企画部
に嘱託として入社し、大規模ニュー
タウン計画、複合商業施設開発など
に携わりました。

1979年に友人とアメリカ東西
海岸を旅行した際、英語の会話力不
足を痛感。子供のころから描いてい
た日本を飛び出したい気持と重な
り、留学と使える英語を身につける
決意をしました。当時不況の真っ只
中のニューヨークの街は暗く、汚く、
楽しいというより凄みがある印象で
すが、何故かその怖さを吹っ飛ばす

魔法のような魅力が頭から離れ
ませんでした。

2年あまり準備した後、1981
年ニューヨークファッション工科大
学に留学、その後プラット大学院建
築学科に転校しましたが、卒業を待
たず就職が決まり、ニューヨークで
実際にインテリア設計・監理の仕事
への第一歩を踏み出しました。3年
後に長女出産、一年間母が応援に駆
けつけてくれましたが、その後は友
人、ベビシッターの多大な協力を
得て、子育てとキャリアを両立させ
ることができました。今振り返ると、
周りの支援を受け、娘と二人三脚で
前を見て走り続けた20数年です。



ゲンスラー&アソシエイツインターナショナルLtd.日本 東京事務所

幼いころから母は勉強しなさいと
は言わず、これからの女の子は手に
職を持たなければだめだと言いつづ
けました。この言葉が私の原点です。
現職は、アメリカで最大手の建築設
計・デザイン事務所の日本代表で
す。ちょうど娘が大学卒業の年に声
がかかり、娘に背中を押され、旦那
には事後報告という形で8年前に単
身赴任してきました。現在は日本が
大好きなアメリカ人の主人と2人暮
らし。楽しみは週末のテニスです。

恩返し为社会貢献活動

千代鳥・モーミンウッディン
(都24・工化院工博)

大学院で工学博士号を取得後、三
つの会社勤務を経て、1996年に
独立。石油精製およびバイオ関連の
工業用シミュレーションソフトの販
売などを行う株式会社チヨウドリ
ソフトウェアサービスを設立。在
日42年になります。これまで、東京
都外国人市民会議委員、神奈川県地
球市民かながわプラザ留学生交流員
コーディネーターなど社会的な活動
も続けてきました。

在学中、文部省をはじめ米山ロー
タリー財団、東急留学生財団などの
奨学金を頂き、日本の皆さんにお世
話になった恩返しの意味で、現在は、

会社経営と共に特定非営利活動法人
ちきゅう市民クラブの会長として、
国際理解、国際交流、また、日本の
地域の国際化に関する講演や各種活
動を行っています。

特にアジア・中東の国々について、
もっと関心を持って頂き、日本がア
ジアの中で更にリーダーシップを発
揮できるよう、そして次代を担う子
どもたちが、生活の中で異文化と出
会い、異文化を理解し、共に「ちき
ゆう市民」として育っていきけるよう、
様々な活動を行っています。この活
動に参加した子どもたちが、将来外
交官になって、アジアの国々との外
交に尽力してくれるようになればと
思っています。

具体的には、学校での異文化理解
ワークショップ、文化ホールでの芸
術文化事業の企画・開催、職員研修、
教材の開発などです。一般向けの大
使館での交流パーティーや大使夫人
の講演会などは、大変人気のある事
業です。

ロシアのピッコロ・ヴァイオリン
奏者、グレゴリー・セドフ氏を招い
て主催したヤマハホールでの演奏会
には、皇后陛下美智子様がお出まし
下さいました。私も主催者を代表し、
事務局長と共に皇后陛下の隣席にて
ご説明係を仰せつかり、思いがけず
大変貴重で身に余る有難い体験をさ
せて頂きました。

料理教室も人気のプログラムで、

2013年4月、同窓会MeCクラブでカレーを作り、皆さんにご賞味頂きました。

NHKの「地球ラジオ」や東京都のTV番組にも出演し、NPO活動を紹介しています。是非皆様にも、イベントや会にご参加頂き、ご支援・ご協力をお願いいたします。
<http://chikyushinin.world.coocan.jp/>
<https://www.facebook.com/chikyushinin.club>

野原さんとの出会い

—そのボランティア精神に
感銘を覚え—
バオ レンチュン
(首都大学東京 非常勤講師)

私は中国黒竜江省の生まれで、ここで育ちました。日本での留学も長い年月を経ています。言うまでもなく、日本は私の第二の故郷のような存在でもあります。

私が首都大学東京の非常勤講師を始めたのは2011年4月頃でした。小松さん*にコピー室で初めてお会いした時、私が外国人の日本語教育に関心を示したことがきっかけで、野原さん**を紹介してもらいました。新宿区にあるNPOの主催で行っている「こどもクラブ新宿」は、野原さんをはじめとする多くの方々が、外国から来た外国人の子ども達にボランティアで、日本語とともに小中

学校の必須教科を教えています。そのことを知り、ぜひともその教育現場を訪ねてみたいと思いました。野原さんにお願ひして見学することができました。

教室を訪ねたその日、二人の中学生に熱心に教えて居られる野原さんの姿がすぐ私の目に映りました。最初、私は日本語のみを教えていると思っていました。が、化学を専門とする野原さんは、数学、化学、物理も教えていることに驚きました。子ども達が笑顔で勉強している姿を見て、またご高齢にもかかわらず、ボランティアで子ども達のために教えていることに感銘を覚えました。野原さんのボランティア精神に多くの学びべきところがあると感じました。

*小松 芳雄 (都11期・経済)
**野原 剛 (都4期・化学)

府大戦4年ぶりの勝利！

第9代 体育会委員長 玉井 元健
硬式野球部

この度の府大戦(2013年7月5日〜7日首都大学東京で開催)は第61回目を迎えることになりました。ここ近年、府大戦だけでなく、横市戦でも負け続きでありましたが、今年も横市戦での勝利を収めることができ、勢いあるままに府大戦を迎

えました。

結果は15勝11敗1引き分けにより、見事勝利を収めることができました。横市戦との勝利を合わせると実に8年ぶりの同時優勝となりました。

この度の府大戦の運営ができたのも同窓会の御支援をはじめとしたOB、OGの皆様方のおかげであり、心より感謝申し上げます。

さて、この府大戦の運営を通じて改めて府大戦の意義を考えさせられました。

特に、2013年1月に行われたした同窓会新年会において第10代運動部連合委員長を務めておられた松見(都12期)さんとの出会いが大きな影響を与えてくださいました。

当時のアウェイでの府大戦は自己負担金が払えなくて参加できない人が多かったそうです。そこで松見さんはその年の府大戦では全員参加できるようにするという志の下、授業を犠牲にし、大学の先生や職員の方々といった大学学内だけに留まらず、都知事、都議会議員、旧制府立高校等学校の先輩に寄付をお願いし、さらには運動部連合が一致団結して「ダンスパーティー」を実施するなどして資金集めに尽力されたのです。

近年の資金集めは、大学の先生や職員の方々と同窓会の寄付により成り立っているので、当時の資金集め

のやり方は今では考えられないことなので驚き、またそれを成し遂げた松見さんをはじめとするスタッフの意志の強さには感動いたしました。

また「雲路」府大戦半世紀の軌跡(2003年3月刊・残部が若干ございますので、ご希望の方には、有料でお分け致します。)を拝見し、歴代の委員長の府大戦への熱い思いを知りました。府大戦は歴代の先輩方が思いを込め、築き上げてきたおかげで成り立っていると改めて思いました。

そして先輩方の思いの詰まった伝統ある府大戦を継承しなければならぬと強く思いました。大阪府立大学と大阪市立大学が統合して大阪都立大学になる構想が最近ではささやかれています。そうなった場合でも継続して定期戦を行うためにも今後の府大戦の勝利が重要になってくると思います。ただ府大戦の目的は勝利を収めるだけでなく、スポーツを通じて大阪府立大学との交流を行い、両校の絆を築き上げることです。来年はアウェイ戦であります。ここで勝つてこそ「本場の強さ」であると思います。今後も勝利を収められるように、また大阪府立大学との絆を築き上げていけるように、我々体育会一同精進して参りますので、今後とも変わらぬ御支援、御鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

包 聯群
バオ レンチュン
東京大学言語情報課程・大学院修士課程修了。
首都大学東京非常勤講師。
東京外国語大学AA研究
究員。中国・黒竜江省出身。

中国で学びながらの会社経営

高部 明敏
(都41・人文・英文)

90年代前半に私が仕事で中国と関わりを持って今年で20年となります。

この20年間、様々な仕事や人との出会いを通じ、ビジネス面から多くの中国という国を学びました。中国での事業展開や企業管理ノウハウを学びながら、今なお自社の中国展開を模索中です。これまで私が出会ってきた中国の方のなかで、特に存在感のある2名の方との出会いとエピソードを紹介したいと思います。

高部 明敏
たかべ あきとし
山梨県立桂高校卒。
1993年外資系日用品メーカーP&G入社、2003年から高部企画株式会社を設立、現在に至る。
建築設計やデータ処理業務を中心に日本と中国で事業を展開。



最初にご紹介したいのは、私がアメリカの日用品メーカーであるP社に勤務した頃に出会った中国下請け会社の営業のNさんです。当時私とNさんは、互いに入社間もなく夢と希望に満ち溢れていました。Nさんの会社は粉洗剤の袋やシャンプー・リンスの使い捨て小袋を作るフィルム包材を製造する会社でした。当時P社は莫大な資金を投じて中国の日用品市場シェアを獲得しようとしていました。その代表的な製品が粉洗剤とヘアケア商品でした。洗剤の香料を逃がさない特殊のバリア性を持つフィルムの開発など、当時購買担当の私と営業担当のNさんは一致団結して、中国初の高性能フィルムを市

場投入することに成功したのです。興奮が冷めやらぬうちに大事件が起きました。Nさんの会社の製造部門と生産管理部門の数名がP社のために生産したフィルムを密かに別会社で横流していたのです。この別会社がP社のフィルムを使って偽製品を作っていました。事態は大きくなり、アメリカ本社の法務部門が直々に処分を下し、当然ながらNさんの会社とは取引停止となってしまいました。損害はお互いの会社にとって大きなものでした。

その後もNさんとはプライベートでお付き合いをしてみました。Nさんは今ではグループ会社の中のPPフィルム部門の会社の社長となり、おそらく次期グループ会社の責任者となる存在まで昇進されると思います。今でも時折一緒に食事をしながら情報交換し、当時の失敗を繰り返さないための社員教育や社員管理の話で盛り上がります。Nさんのような生え抜き経営者からさまざまな企業管理ノウハウを多く学ばせていただきました。

P社を辞めて現在の会社を立ち上げた直後に出会ったのはKさんです。当時Kさんは杭州で小さな自動車修

理店をやめ、中古の子供用おもちゃ製造機を数十万円で購入し、窓ガラスの破れた倉庫でおむつ事業を立ち上げようとしていました。私が元P社の同僚から依頼を受け、中国で犬用おもむつを製造できる会社を探しているときでした。杭州西湖の湖畔にあるホテルロビーで偶然Kさんと出会い、これもまた意気投合して数時間その場で話し込んだ翌日、工場を見学に行くとその環境の酷さに大きく落胆しました。

しかし、Kさんの綿密な事業プランと事業に対する情熱は私の気持ちをおかし、こちらのニーズであるローコストと高品質をしっかりと受け止め、滔々と事業立案を展開していききました。直感的にこの人はすごい人だと感じました。それから元P社の同僚と共に、Kさんの会社でベトナムおもむつ事業を立ち上げるまでに至りました。ピーク時には月当たり数コンテナを日本に輸出するまで成長し、Kさんも古い倉庫から新しい工場を新築しました。Kさんの成功の鍵は、日本への輸出の際クリアしなければならぬのは品質であることとKさんがいち早く理解し、徹底した品質管理をできたことによるものでした。日本への輸出実績を前面に出して、北米をはじめ中東、南アフリカ、東南アジアへと輸出を拡大しました。Kさんは、「一番難しい国のドアをこじ開けられれば、他

の国は簡単なことだった。」と名言を私に残しました。

その後、子供用おもむつから大人用介護おもむつへと事業を拡大し、この数年では海外市場を維持しながら中国国内市場にも力を入れ、中国全土に一万店の直販店を展開するまでになりました。OEM生産に加えて、自社ブランドを立ち上げ、大人用おもむつから介護用品全般へと事業を拡大し、今では広大な工場を三つ、1本数億円もするイタリア製の生産ライン数十ラインを有し、売上二百億円を超える上場企業となりました。Kさんは典型的なチャイニーズドリーマーであり、彼からはアントレプレナーシップ(企業家精神)を多く学ぶことが出来ました。今でもKさんが日本に来ると私を料亭に招待してくれます。Kさんは人付き合いの中で、「友情」よりも「利益」が優先されるといふフィロソフィーを鮮明に持っています。経営者として賛同する部分もあれば、複雑な思いを感じる面もあります。

このように中国でさまざまな方と出会い、さまざまな失敗談と成功例を繰り返しながら今日の会社経営に至っています。いろんな方から学んだノウハウを自分なりに咀嚼し、日本と中国の間でニッチなオンライン企業を目指し、クライアントそして社員にとって安定した会社運営が出来ると努めているところです。

第一回プロジェクト奨励賞が授与されました

プロジェクト奨励賞は、昨今の世の中において、大学の活力等総合力を問われていることを踏まえ、「大学に活気を」、「学生には活力を」生み出してもらうことを願って創設を検討しました。学生が自ら企画して事業を行う、その企画に助成することを目的として、2013年3月の同窓会の理事会で決定されました。

1. 助成対象の活動は、公序良俗に反しないこと、特定の政治的および宗教的なものでないことが基本です。
 - (1) 社会的貢献となるような活動
 - (2) 自主的・創造的な学術研究
 - (3) NPO法人の設立の準備活動
 - (4) 創業を目指す場合の基礎となる活動
 - (5) プロジェクトの企画などです。
2. 活動期間は、おおむね1年間。
3. 助成金額は、総額で、50万円。(1テーマ最大50万円)
- 理事会の決定を受けて、5月に募集し、5件の応募がありました。6月に審査の結果、7月23日に下記の各団体に第1回の「プロジェクト奨励賞」が、授与されました。

受賞者およびテーマ

1. 荒川キャンパス東北支援隊(代表 嶺井あかね 健康福祉学部 作業療法学科 3年)
- 申請テーマ
(東日本大震災における) 仮設住宅でのマッサージ・手芸活動

2. 首都大学東京管弦楽団(代表 花形 優一郎 都市教養学部社会学 コース3年)
- 申請テーマ
2013年定期演奏会

3. TMU-SFC(代表 大塚 祐希 都市教養学部化学コース3年)
- 申請テーマ
化学実験ボランティア活動

4. iGEMTMU・Tokyo(代表 桜井 絵里 都市教養学部生命科学コース3年)
- 申請テーマ
合成生物学の研究

贈呈式は大学の理事長室で行われ、繁田副学長を始め、学生サポートセンターの関係者が出席されました。同窓会会長代行が賞を授与しました。次いで30分ほどの懇親会で活発な質疑応答が行われ、上記プロジェクトの実現を約束しました。

八雲クラブで会いましょう

丑山佐千男(都22・政治)

渋谷駅から徒歩数分の一等地に同窓会施設・八雲クラブがあります。同窓会のホームページでは紹介されていますが、実際の施設を同窓生はもちろん現役の学生諸君にまだまだ周知されていないのが残念です。

ここでは毎月第二水曜日に、首都大学東京同窓会の会員であれば、だれでも参加できる「八雲サロン」が開かれています。

まもなく330回、28年も続いている八雲サロンでは、多彩なゲストが毎回登場します。今年になってからのゲストとテーマは、『大人になって出会い直す「絵本」の深い喜び』(広松由希子・34・仏文)、『東日本大震災 復興まちづくり支援』(佐藤俊一・21・建築)、『国際ボランティアちきゅう市民クラブ』(千代鳥モーミンウッデン・24・工化院)、『音楽の都から東京へ』(ミヒヤエラ・ルムプラー・首都大院)、『自給自足の山登り、サバイバル登山の実践と思想』(服部文祥・42・仏文)、『良い歯科医院の選び方』(松本理・25・数学・歯科医)、『本への思いを音にのせて』(渋谷裕子・46・社会)、『植木職人になって楽しむ第二の人生』(井原修・22・機械)……。

最近では、友好校の大阪府立大学

同窓会からの参加も得て毎回会場が盛り上がっています。

八雲クラブの会員になれば、この施設が自由に使えます。クラス会や勉強会から趣味の会までいろいろな会合に活用することも可能です。施設内はまた無線ランも整い、厨房施設も利用可能。

いちど八雲クラブをのぞいてください。皆さまのおいでをお待ちしております。

◆八雲クラブ新年会

2014年1月11日(土)15時~18時「ヨーロッパ写真紀行(仮題)とカクテルの宴」毎年恒例の八雲クラブ会員親睦のための新年会です。会員は参加費無料。首都大「美酒倶楽部」のカクテルコーナーをオープン。根谷崎武彦氏による写真展を同時開催します。



千代鳥モーミンウッデンさんを囲んで



塚原 信孝
つかはらのぶたか

— シリーズ — 東日本大震災 に向き合う 同窓生の皆さん

復興事業に取り組んで

塚原 信孝（都23・工・建築）

昨年の会報8号で、東京都の一般任期付職員として採用され、災害公営住宅建設のための技術者として福島県いわき市に派遣されたことを報告しました。

東日本大震災からの復興事業に、発注側の被災自治体の職員として携わり、「復興事業」は生半可で行かないことを直接肌で感じ、日々の忙しい業務に追われながら一年が経ちました。復興事業の円滑な推進を阻害する要因はあまりにも多く、発注側の被災自治体の技術職員のマンパワー不足を補うことが期待されている、他自治体からの派遣職員の十分ではない充足率、復興事業を受注する地元建設業界などの量的不足、建設資機材の不足、職人不足等々です。復興事業という膨大な事業の経験は誰にもなく、暗中模索で目の前の業務に立ち向かっていますが、他自治体からの応援を含め、被災自治体だけの努力で解決できる問題ではありません。さらに国家予算を確保し、国の人材を投入し、全国の自治体が応援要員を派遣し、可能な限り全国の建設業界等が復興事業へ人的・物的資源を被災地に投入するなど、国全体で解決していくことが必要な課題が多くあります。

題が多くあります。

そして、復興の主体である被災地住民のモチベーションを支える全国の教員、OBの多くが、精力的に現地に入り様々な活動をこの一年積み重ねてきています。

いわき市においても、「ふるさと豊間復興協議会」に私が属した都市計画研究室の教員・OBの多くの方々が支援していただいております。同窓会であることを最大限活用し、自治体と地域とが連携してすばらしい復興を実現すべくお手伝いが出来ればと思っています。

同窓生の皆様も、常に関心を持っていただき、復興に何らかのお力を発揮いただければと思います。私自身も、復興事業に目処が立つまでしっかり使命を全うしたいと思っています。

その後の桑畑書店

— 復興 いまだ遠く —

桑畑 真一（都24・経済）

桑畑書店は3・11の津波で、2階建店舗と自宅が流失し、翌月から仮事務所へ配達業務のみを再開しました。5人のスタッフは全員解雇し、私たち夫婦と、隔日勤務のスタッフ一名で何とか営業を続けました。5

人は全員、10年から30年勤務のベテラン揃いでその解雇は苦渋の決断でした。配達のみでの売り上げは、震災前の3分の1以下で、早期に店舗の再建が必要ですが、旧店舗の周りには大潮時に海水が浸水する状況が現在も続いており、今年の6月から始まる土地のかさ上げが済むまで、再建は困難な状態です。

震災の年の11月、国の支援による仮設商店街に入居し、仮店舗での営業を再開しました。その店は9坪（旧店舗は70坪）の広さしかなく、場所も津波浸水地区の山側にあり、周囲の人口が少ない地域です。そのため、配達を含めた売り上げが旧店舗の半分ほどにしかならず、再雇用した3人のスタッフの給与は、以前より2割以上カットせざるを得ませんでした。売り上げ回復のために、絵本の読み聞かせ（毎月1回）の復活、「遺体」の著者である石井光太氏と釜石市長などによるシンポジウムの開催、棚構成・品揃えの見直し、ベストセラーの確保など、様々な対策を続けていますが、目に見えるほどの効果があがっていないのが現状です。

そうした中、衝撃的な情報が入りました。来春、釜石にイオンタウンが進出し、テナントの中に全国チェーンの書店が、250坪程度で出店すると言うのです。場所は、旧店舗から300mの近さにあります。その影響を最小限にする対策を立て、できれば

来年の秋に、新生「桑畑書店」として再開できる日が来ることを願っています。



仮店舗で営業中の桑畑書店

震災復興まちづくり

— 住民ワークショップを支援する

佐藤 俊一（都21・院工・建築）

いわき市豊間地区の地元復興協議会の現地事務所の建設のため、寄付金を多くの方からお寄せいただきありがとうございます。事務所は昨年6月完成し、現在6名が常駐し有効に機能しています。その後の復興の歩みをご報告いたします。

……大震災から2年半近く経つが、津波の壊滅的被害地域の復興は遅々として進まない。原因は様々だが、



須藤 悠太
すどう ゆうた
首都大学東京都市教養学部
理工学系機械工学コース4
年。環境機能材料学研究室
(吉葉研究室) 所属。



神山 直樹
かみやま なおき
首都大学東京大学院理工学
研究科機械工学専攻修士1
年。環境機能材料学研究室
(吉葉研究室) 所属。

大きな要因の一つが住民との合意の難しさにある。各自治体は一生懸命アンケートをとり、説明会を開くのだが意見をまとめられない。自治体、住民それぞれ言いっぱなしとなる。自治体と住民の間に専門家が入って掛け橋となり、ワークショップ方式で話をまとめるのが有効である。

東京都立大学及び首都大学東京のOB・OG10数名で立ち上げた専門家支援グループは、豊間地区の復興協議会の要請を受け、昨年9月から12月にかけて10回の連続ワークショップを行い、提言としてまとめ、今年2月にいわき市長に手渡した。これを受けて、災害公営住宅(192戸)、復興土地区画整理事業(約60ha)が進められている。この方式が目玉され、豊間地区の防災緑地(高さ10.2m、幅50m、延長2km、面積13ha)の整備について、福島県からワークショップが依頼された。今年4月から6月まで4回開催し、地域の魅力を高め、暮らしの復興を目指す緑地整備の提言をまとめた。初めは戸惑っていた住民も行政も、懸け橋に期待する。

《ふるさと豊間東京支援グループ》
代表・高見澤邦郎(首都大学名誉教授)
参加OB/OG・山本 忠、秋山 哲男、佐藤俊一、茂木 泰、古里 実、連 健夫、加藤仁美、松本暢子、重永真理子、藤井祥子、小川

美由紀、葉袋奈美子、西田奈保子
連絡先…NPO法人美しい街住まい倶楽部 佐藤
(E-Mail: npo-usukushi-club@bz01.plala.or.jp TEL: 047-496-7778)



地域主体の復興まちづくりへの取り組みを語る佐藤俊一氏

消息をご存知の方

お知らせください。

2011年(平成22年)3月11日の東日本大震災の影響で、避難先が不明の方がおられます。ご存知の方がおられましたら、事務局までお知らせください。

松崎 奈江	医技短	10 期	看護
三瓶 晃優	科技大	11 期	機械
小野 広司	都立大	34 期	学 法律
吉田 圭子	都立大	48 期	経済 経済
富澤 雅幸	都立大	48 期	経済 経済

南三陸ボランティアに参加して

参加して

神山 直樹

須藤 悠太

首都大・院理工学・機械・修士1年
首都大・都市教養・理工・機械4年

私たち2名は今年のゴールデンウィークを利用して、4月26日から4月28日の三日間、南三陸町のボランティアバスツアーに参加した。東日本大震災から2年経ち、仕事を再開する人が増える一方、復興事業に働き手が取られて、農漁業の現場で働き手の確保が厳しい状態であるという。吉葉教授からこの話を聞き、微力であったとしてもその土地で生きる人たちに何か支援したいと強く感じ、大手旅行会社が募集していた宮城県南三陸町へのボランティアツアーへの参加を決意した。

このツアーの参加者は約60人。26日の夜、大型バスで新宿を出発し、27日早朝南三陸町到着と同時に数人ずつの班に分かれ、作業開始。午前中の作業は水揚げされためかぶの芯をはぎ取る作業、はぎ取った大量の芯を他の養殖している魚介類や海藻類の養分にするためにボートで運び、海に帰す作業を手伝った。

午後は作業小屋へ移動し、わかめの出荷作業の手伝いを行った。水揚

げされたわかめを手作業でほぐし、袋詰めにして封をする作業を班全体で協力し合いながら進めていった。指導してくださった漁業者曰く、

この時期はめかぶ、わかめの収穫の最盛期であり、特に人手が必要であった。震災以前、こうした作業は臨時アルバイトを雇っていたそうだが、今は復興事業の建設作業の方が報酬が高く、なかなか人手が集まらないという。津波の影響で、漁業に必要なものは全て流されてしまったが、自治体から借金により船など漁に必要なものを揃えることができた。今その返済のためにも漁を頑張らなくてはならない。

今回参加した我々がこの作業に携わることで多少なりとも力になれたと思いたい。

最終日の28日、南三陸の伊里前、清水浜を車窓から見学した。車窓から見える景色は、震災から2年経っていたこともあり、瓦礫は大分片づけられていた。しかし、それに伴い更地が延々と続いていた。震災当初、トイレットパーパーやティッシュペーパーといった生活必需品を買いに行くのにも車で片道1時間かけて買に行かなければならない状況だったという。現在は急造したと思われるガソリンスタンド、プレハブで建てられたコンビニが点在しているが、これらも生活に最低限必要な分を得られる程度のものでしかなく、

町全体の活気を取り戻すにはまだまだ多くの時間と費用がかかりそうであった。

車窓見学途中、南三陸町防災合同庁舎を視察した。この防災庁舎は、津波襲来直前まで女性職員が町民に避難を呼び掛け続けたが、津波は庁舎屋上まで押し寄せ、多くの職員が犠牲になった。骨組だけ残った形が原爆ドームを彷彿としているようだった。鉄骨が大きく曲がっているところから、水圧、津波の恐ろしさを物語っている。

被災地の状況はこれまで、テレビなどで報道されるレベルの認識しかなかったが、そこで見た被災地の惨状と、その土地で生きる人々の現実、我々の普段の生活から想像できるレベルを遥かに超えるものであった。

ボランティアツアーの最後の行程として、復興市場、「南三陸さんさん商店街」での買い物をした。ここでの売上金は南三陸町の復興やここで生きる人々の生活の資金となる。地元で獲れた新鮮な食材をふんだんに使ったものが並んでおり、どれも魅力的であった。その中でも吉葉先生のお勧めの「かまぼこロッケ」は、サクサクとした衣とその中に包まれたかまぼこの甘味と優しい食感が口に広がり、とてもおいしかったので、機会があれば是非ご賞味いただきたい。また、吉葉先生にこの

「かまぼこロッケ」をお土産として頼まれ、その代金を預かってきたので、先生宅に送料着払いにて郵送をした。クール便での郵送にしたことで、商品よりも送料の方が高くなってしまい、先生は私たちに対して「ちゃっかりしてるな」と皮肉られたが、ご家族でこの味を堪能されたようだった。

今回のボランティアを終えて、震災から2年経った今でも当たり前前と思っていた普段の生活が送れている人がたくさんいる現状を目の当たりにした。がれき処理など、震災直後に比べ改善された点もあっただろうが、今回参加した漁業支援などのように、震災以前の生産活動を行うことができず、まだまだ多くの支援が必要であると感じた。

復興支援への意識は年々薄まっている。実際今回のボランティアツアーの参加者はほとんど社会人の方で、学生参加者は我々だけであった。現地の方々は忘れられてしまうことが一番怖いと口をそろえて言う。被災地の状況をできるだけ多くの人に伝え、関心を持ってもらうよう努めることが、ボランティア参加者としての今の我々の使命であると思う。

近いうちに再び被災地を訪れ、自分のできる範囲だけでも何か復興の手助けをしていきたいと考えている。



わかめの袋詰作業



めかぶの芯を海に帰す作業



めかぶの芯をはぎ取る作業 (左：神山、右：須藤)



南三陸さんさん商店街の様子



南三陸町防災合同庁舎の外観②



南三陸町防災合同庁舎の外観①



母校はいま

見出しの☆印は同窓会で
支援している行事です。

2383名が新たな門出

2013年3月25日(日)、東京国際フォーラムにおいて、学部卒業式、大学院修了式が行われました。学部卒業生は1574名、大学院卒業生は809人、合計2383人が新たな門出を迎えました。今年の東京は暖かい日が続き桜の開花は早く南大沢キャンパスの桜は五分咲きでした。あいにく卒業式当日は今にも雨が降り出しそうな花冷えの寒い日でしたが、卒業生・修了生は10時開式の一時間も前から続々と集まりました。

新しく2515名を迎えました

4月7日(日)午後2時から東京国際フォーラムにおいて今年度の入学式が行われました。前夜来の急速に発達した爆弾低気圧の来襲で天候が心配されましたが、吹き返しの風が吹いたにもかかわらず、まずまずの天気になりました。今年度の入学者は学部1628名、大学院887名、合計2515名でした。

12時半頃から、新入生および保護者などが集まり、4ヶ所設けられた記念撮影場所や同窓会「祝入学」の横断幕の前で記念写真を撮る姿が多くなりました。



4ヶ所に設けられた記念撮影の場所は長蛇の列でした



着物と袴で記念撮影

タイムズ世界大学ランキングで
本学は、今回も国内順位で第7位

「タイムズ世界大学ランキング」(Times Higher Education's 2012-2013 World University Ranking)で本学は266位にランクされました。これは、国内の公立大学の中で第1位、国内トータルの順位では、東京、京都、東京工業、東北、大阪、名古屋大学に次ぐ第7位のランクです。このランキングは、教育、研究、引用数、産学連携、国際性の指標に基づくもので、本学が国際的にも評価されていることがわかります。

☆第61回首都大学東京・大阪府立大学
総合競技大会、今年も本学が優勝

2013年7月5日(金)～7日(日)南大沢キャンパスを主会場として行われました。大会初日は早朝までは梅雨末期の雨でしたが、開会式の始まるころは曇りとなり、翌日には、関東・甲信越は梅雨明けして、35度を越える猛暑の中で熱戦が繰り広げられました。競技の結果は27種目中首都大学東京の15勝11敗1引き分けて本学が総合優勝を果たしました。これで、通算成績は24勝33敗3分1中止という結果になりました。更に来年度以降の健闘を期待するところです。



チアガールを激励する高橋宏前理事長、右は繁田大会運営委員長



ここ数年部員がいなかったチアリーディング部、今年も4名の新入生が入部、熱烈応援に華を添えました



アリーナに勢ぞろいした両校選手団

対府大戦、今年のスローガンは
「初志貫徹」でした

首都大学東京・大阪府立大学総合競技大会の今年のスローガンは「初志貫徹」でした。府大戦は、既に61回、人並みに言えば還暦を迎えたところです。当初の志（浪速大学と都立大学の対抗戦として始まった第一回の頃の情熱・気合）を意識して戦おうという意味でしょう。なお、毎年スローガンが変わりますが、これは、大会が開催される会場になる大学がその年のスローガンを考えるそうです。



横浜市大戦も本学の勝利

2013年6月2日（日）第32回対横浜市立大定期戦が横浜市大キャンパスにおいて行われました。今年本校が4年ぶりに8勝6敗1引分1中止で勝利し、優勝旗を持ち帰りました。通算成績は本校が25勝4敗

2引分1中止と、圧倒的に勝利しています。横浜市大戦は大阪府大戦に比べて、参加するチームが少ないのが残念です。

春田正毅教授がトムソン・

ロイター引用栄誉賞を受賞
（ノーベル賞受賞候補者）

2012年9月、春田正毅都市環学部教授（研究分野・金ナノ粒子、触媒化学）が、トムソン・ロイター（本社・米国ニューヨーク）から「トムソン・ロイター引用栄誉賞」を授与されました。授賞理由は「金の触媒作用の独自の基盤的発見」によるものです。

本賞は、過去20年以上にわたる医学、生理学、経済学分野の上位0.1パーセントにランクする研究者で、特に注目すべき研究領域のリーダーと目される研究者の中から選ばれています。

また、学術論文の引用とノーベル賞受賞者に対する評価は、強い相互関係があることから「ノーベル賞有力候補者」として発表されており、今後のノーベル賞受賞についても期待されるところです。

首都大学東京 大学説明会

2014年度、本学を受験しようと考えている人々のため、大学説明会が左記日程で開催されました。

オープンキャンパスとして3キャンパスが開放され、今年は今学で20%増の来校者がありました。

学部・学系ガイダンス、コース別ガイダンス、施設見学、模擬授業、個別相談コーナーなど熱心に見聞き、知識を深めました。

南大沢キャンパス（全学部対象）

第一回 7月14日（日）

第二回 8月17日（土）

日野キャンパス（システムデザイン学部対象）

7月27日（土）



昨年より20%も増えた来校者で埋まった南大沢キャンパス

荒川キャンパス（健康福祉学部対象）

8月6日（火）

☆スポーツ・文化活動賞は3チームに

スポーツ・文化、及び社会貢献活動において、優れた成績を収めた団体・個人を大学が表彰し、同窓会が副賞を提供するスポーツ・文化活動賞は、次の3チームに決定し3月19日、本部棟大会議室において表彰式が行われました。

① 体育会 学術探検会（南大沢キャンパス）

受賞理由・特別にコーチや指導してくれるOBなどがいない中、自主トレ・スケジュール管理・成長戦略・財産確保・装備維持などを全て手造りで行動し、社会人プロに積極的に関わってノウハウを習得した結果、第39回北海道バルーンフェスティバルにて総合優勝に輝いた。

② 鳥人間部 TIMIT（日野キャンパス）

受賞理由・2012年7月に開催された第35回「鳥人間コンテスト選手権大会」（よみうりテレビ主催）人力プロペラ機タイムトライアル部門に出場し、チーム初の完走を達成し3位入賞した。2位



鳥人間コンテスト選手権大会で3位入賞を果たしたT-MIT



北海道バルーンフェスティバルにて総合優勝をした体育会学術探検隊

のチームとは、わずか1秒差ではあったが、初の表彰台であった。

③ 体育会 パワーリフティング部（南大沢キャンパス）
 受賞理由…「第39回全日本学生パワーリフティング大会」で松澤孝信選手が105kg級で2位になり、105kg級のデッドリフトでジュニアニッポン新記録を樹立した。



松澤孝信君が2位に入賞した全日本学生パワーリフティング大会

☆☆ファイティングスピリット賞は3グループ、1個人に

ファイティングスピリット賞は、高い志を持って目標を設定し、困難に対して闘志を失わず奮闘し、優れた成績を収めたグループ・個人を表彰し、同窓会からは副賞を贈呈するものです。今年は12件の申し込みがあり次の4件の受賞が決まりました。

① 古川智章（ESS所属）

申請テーマ…英国即席スピーチ国際大会優勝への挑戦。
 受賞理由…英語によるスピーチコンテストのために、置かれた環境を克服して、知識と構成員を磨き、自己能力の向上を図り、優秀な成績をおさめた。

② 首都大学東京コンパクトEV研究会（代表 奥山純平）

申請テーマ…コンパクトEVの製作活動を通して。
 受賞理由…独学で自動車工学の勉強をし、EVを試作し、車検取得可能なレベルに仕上げた。さらに他校への留学制度を活用し、自動車工学の単位の取得を計画中である。寄付講義も活用し、タックスペイヤーの4番バッター、自動車会社の世界展望の司令塔、設計の座のゲットを目指している。その主体性・闘志は際立っている。

③ 宇宙システム研究（代表 増田充宏）

申請テーマ…世界各国の研究者を本学に迎えた航空宇宙学習プログラムへ向けた活動。
 受賞理由…途上国の成人（30〜70歳）向けの教育実習を行い、更に、スタンフォード大学主催の小型模擬人工衛星（カンサット）競技会において、3位に入賞した。今後、大学がお茶の間に登場する唯一の技術コンベン「鳥人間」へのカンサット技術の供与、または「航空宇宙工学」の強化を生かした直接進出が期待される。

④ 体育会テコンドー部（代表 三木俊介）

申請テーマ…団結。



カンサット競技会において3位入賞した宇宙システム研究会



独学でEVを試作したEV研究会の仲間



受賞の後英語で挨拶をした古川智章君



ソフトテニス部のメンバー

ソフトテニス部は、現在男女共6部に所属しています。毎年、千葉県

ソフトテニス部が男女共に昇格



テコンドー部の試合風景

受賞理由…全日本の大会で、二年連続して優秀な成績を残した。

上・ウーロンゴ大学(オーストラリア)
英会話プログラム
下・国立清華大学(台湾)での授業風景



理工学研究科では、大学院進学を予定している卒業研究生(4年)12人に海外の研修機関(アメリカ、イギリス、フランス、スウェーデン、オーストラリア、台湾)での留学支援(3週間〜3ヶ月)を行いました。留学先は、教員の共同研究等の実績がある研究機関となり、留学した学生の報告会が1月8日に開催されました。

理工学研究科で海外留学支援プログラムを実施

白子町にて開催される2011年度関東学生春季・秋季リーグ戦で2期連続男女揃って昇格しました。また男子は2012年春季リーグ戦でも昇格し、3期連続の昇格になりました。



国立中山大学Welcome Trip



コロラド大学(アメリカ)



ベトナムブース

国際交流ボランティアサークル「HANDS」が主宰して、本学の留学生、日本人学生及び地域の方々の国際交流を目的に、1月17日(木)国際交流会館において、INTERNATIONAL PARTY」と題した国際交流イベントを開催しました。日本を含む10カ国の民族文化を紹介するイベントです。国ごとにブース展示を設置し、民族衣装や装飾品、伝統料理、母国の世界遺産等、個性豊かな紹介が行われました。より多くの人に、留学生と仲良くなって欲しいという思いで、次回は来る12月6日(金)18時より同会場で開催するこ

国際交流サークルHANDSがINTERNATIONAL PARTYを開催



マレーシアブース



オーストラリアブース (マッコリー大生) と

とになっていきます。お問い合わせ、参加ご希望の方は、代表幹事、森大樹(システムデザイン学部2年)にご連絡ください。
 電話080-1273-7497
 Eメール: fanuki29love@yahoo.co.jp



カンサットのフライト試験に成功し、Tシャツコンテストに最優秀賞を受賞したTMU☆CANチーム

毎年8月に行われる日本最大規模の学生・社会人によるロケット打ち上げ及び超小型模擬航空宇宙機「カンサット」の実験を行う大会において本学システムデザイン学部航空宇宙システム工学機械コースの大学院生及び学部4年生の指導を受けながら、同コースの1年生チーム(TMU☆CAN)がカンサットを開発し、そのフライト試験を実施し、成功しました。

なお、一般公開日(8月25日)に各チームのTシャツコンテストが行われTMU☆CANが作成したTシャツが最優秀賞を受賞しました。

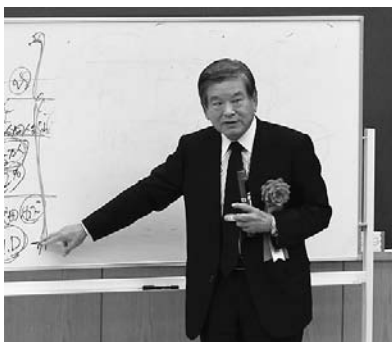
 第9回能代宇宙イベントで本学はカンサットのフライト試験に成功



高大連携協定を締結して、関係者の記念撮影

本校は8月30日(金)に新たに都立富士高等学校・付属中学校、都立国分寺高等学校、都立駒場高等学校、帝京大学高等学校の4校と高大連携協定を締結しました。これにより、既に締結している都立桜修館中等教育学校、都立南多摩中等教育学校、都立武蔵高等学校、都立町田高等学校、神奈川県立相模原高等学校、八王子高等学校、立川高等学校、立川国際中等教育学校と合わせて高大連携協定を締結した学校は12校になりました。協定校とは、大学見学や大学授業の体験だけでなく、大学生が高校へ行って、大学生活を伝え高校教育を支援するほか、教員研修や教員養成にも協力して取り組んでいきます。

 新たに高等学校等4校と
 高大連携協定を締結しました



みやこ祭で記念講演をされる川淵三郎理事長

みやこ祭は11月3日(日)〜5日(火)の3日間、南大沢キャンパスにおいて、賑々しく行われました。川淵三郎理事長による記念講演「夢があるから強くなる」に引き続き、国際交流会館において懇親パーティーが開かれました(1頁参照)。

青鳩祭は10月19日(土)、20日(日)荒川キャンパスで行われました。

 ☆みやこ祭・青鳩祭は盛会でした

 ☆プロジェクト奨励賞の創設

大学の活力等総合力が問われていることに鑑み、「大学に活気」を、そして「学生には活力」を生み出してもらうことを願って、この度、「プロジェクト奨励賞」を創設し、学生自主的な活動に活動資金を支援することになりました(10頁参照)。

看護学科

保健・医療・福祉チームの中で、リーダーシップを発揮できる看護職の養成。

理学療法学科

医学的基礎知識と専門的技術を基礎とした高い「臨床実践能力」を培う。

作業療法学科

高度な専門知識と技術を身につけた生活支援スペシャリストを養成。

放射線学科

体の中を「診る」。私たちは、そのスペシャリストを目指す。



看護実習室

病院を想定した実習室で、より良い看護を行うため、自主的に課題に取り組んでいる。



運動療法室

身体の不自由を感じている患者に対して、その機能評価の方法について学習します。



水治療室

プール浴での浮力・流体抵抗やパラフォン浴の温熱効果を利用した治療法を学びます。



基礎作業学習室

織物や油絵、籐細工などの作業活動を科学的にとらえて分析する勉強を行っています。



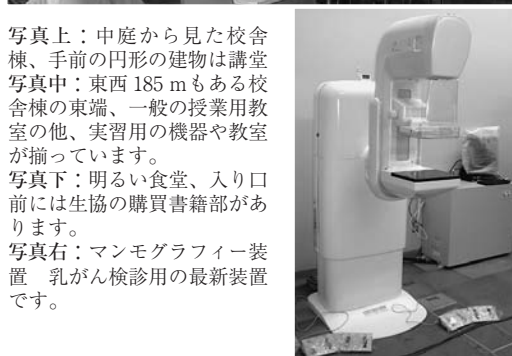
MR I 装置

最新のMRI装置で脳の機能活動や神経繊維の可視化など、画像診断技術を学びます。



画像観察室

校内のX線CT画像やX線撮影データをこの部屋の端末に転送し、高精細モニタで診断や画像処理を学習する実習室。



写真上：中庭から見た校舎棟、手前の円形の建物は講堂
写真中：東西185mもある校舎棟の東端、一般の授業用教室の他、実習用の機器や教室が揃っています。
写真下：明るい食堂、入り口前には生協の購買書籍部があります。
写真右：マンモグラフィー装置 乳がん検診用の最新装置です。



キャンパス 紹介

荒川キャンパス

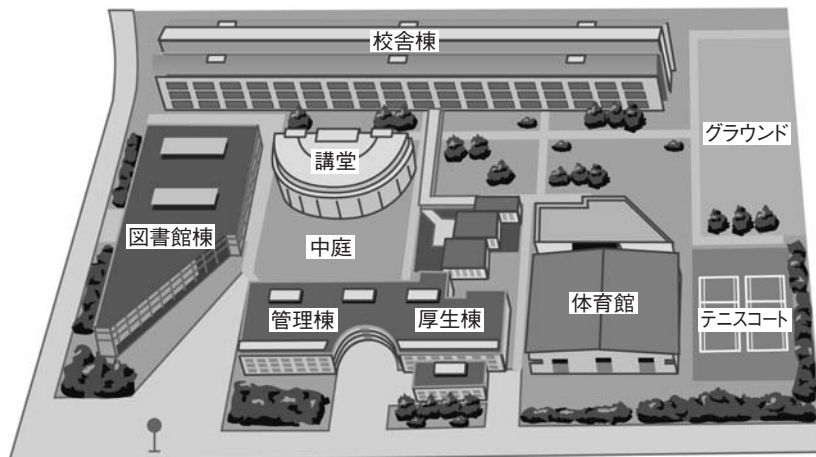
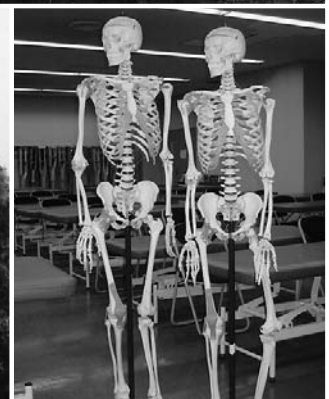
3学部のうち唯一都心にキャンパスを置く健康福祉学部は、日暮里から舎人ライナーで、あるいは大塚または王子から都電荒川線に乗り、「熊野前」駅で下車徒歩3分のロケーションにあります。

高い塀や植え込みがなく、いかつい門構えもない本学部は、ケヤキ林を通して目に映る校舎・図書館・講堂が、実に解放的で清潔感に満ちたキャンパスです。

奥に建つ校舎棟は、東西に185mという長さで、直線に伸びた廊下の壁面は、各学科ごとにブルー・ピンク・グリーンに色分けされています。

南大沢で基礎・教養・基盤科目を学び終えた2～4年学部生（600名）と大学院生（250名）、併せて約850名がここで学び、国家資格取得に向けた専門教育科目の履修や臨地・臨床実習などを行っています。

本学部と同様の履修が出来る大学は、全国で看護・理学・作業が約200校、放射線が27校ありますが、本校の医療施設は最先端で、特に3T(テラス)高磁場MRI装置を教育・研究用に備えている大学は類をみないそうです。そんな荒川キャンパスをご紹介します。



写真上左：キャンパスへのエントランス、開放的で清潔感があふれています。

写真左下：学部長室・事務局・大中小会議室を擁する管理棟の玄関。

写真右上：ガラス張りの瀟洒な図書館。閲覧席120脚、おおよそ14万冊を所蔵しています。

写真下中：校舎4階から見るスカイツリー、手前下の校舎は体育館。

写真下右：他学部では見られない授業に使う骨格標本。

研究室の紹介を通じて 同窓生、大学、在校生をつなぐ 第2弾は小笠原研究施設

首都大学東京における 小笠原研究

首都大学東京小笠原研究委員長

可知 直毅
(理工学研究科・教授)

小笠原諸島は東京の南約1000km、1200kmの太平洋上に散在する海洋島(過去に大陸と陸続きになったことがない島)です。進化の実験場と言われる特異な自然をもつため、2011年6月にユネスコにより日本で4番目の世界自然遺産地として登録されました。本学は、小笠原に研究施設をもつ唯一の大学として、小笠原が1968年6月にわが国へ返還されて以来、東京都立大学時代を含め46年におよぶ小笠原研究の実績を持ちます。父島の小笠原研究施設(写真)を拠点として、自然科学にとどまらず人文・社会科学を含む多彩な研究が行われています。

本学における小笠原研究は、1976年度から全学的な組織である「小笠原研究委員会 (<http://www.tnu-ogasawara.jp>)」によって運営・推進されてきました。他大学などの研究者との共同研究や文部科学省の科学研究補助金による研究、環境省の地球環境研究推進費による研究なども活発に行われています(2012年度に実施された科研費による研

究は8件、間接経費を含めた総額は3736万円でした)。また、2007年6月に東京都と連携して南硫黄島自然環境調査が戦後2回目25年ぶりに実施され、その成果が小笠原諸島の世界自然遺産登録にむけた科学的根拠のひとつとして活用されました(南硫黄島調査隊は、2008年度の東京スピリット賞を受賞しました)。

本学の小笠原研究の特徴は、生物、水環境、大気環境、気候などの自然系の研究だけでなく、小笠原の固有の文化や歴史に関する人文・社会科学の研究を含む学際的な研究を実施している点にあります。欧米系島民が話す独特な言語の歴史、無人島で外来生物のヤギが駆除された後の生態系の変化など、東京都に属しながら大洋中に孤立して存在する島という特殊な条件を生かしたユニークな研究成果が数多く得られています。これらの実績を背景に、本学の小笠原研究者と小笠原研究委員会は、小笠原諸島における希少動植物の絶滅危惧の最大の原因である外来動植物の管理、自然再生に向けた科学的助言、自然環境を保護しながら観光産業を振興するエコツーリズムの提案などを積極的に進めています。

小笠原研究施設の前身である父島研究室(1970年に開設)は、1992年に全面改修され、東京都立大学小笠原研究施設として開設さ

れ、2005年に首都大学東京に引き継がれました。本施設は、首都大学東京の学部生、大学院生の研究拠点としても活用されています。また、学部教養課程の野外体験講座やツーリズム関係の専門課程のインターンシップ実習にも活用されています。2012年度の延べ利用者数は195名、延べ利用日数は1293日でした。

小笠原研究施設を利用した小笠原研究の成果は、村民や観光客を対象とした現地講演会、施設内の展示ホールでの展示や各専門学会の学術雑誌への発表のほか、小笠原研究委員



小笠原研究施設(父島)

会が編集発行する「小笠原研究年報」や「小笠原研究(Ogasawara Research)」により、大学・研究機関や行政機関をはじめ地元島民や一般に広く紹介されています。これらの研究報告の電子版は、本学の図書館リポジトリ「みやこどり」から無料でダウンロードできます(<http://www.repository.tnu.ac.jp/dspace/>)。

同窓会員の皆様、小笠原に行く機会がありましたら、小笠原研究施設にお立ち寄りいただき、後輩の学生を励ましていただければありがたく存じます。



東京スピリット賞を受賞した南硫黄島学術調査隊



現場体験型教養科目「自然と社会と文化」でのシュノーケリング体験授業

□ 大学事務局からのご報告 □

□ 4つの研究センターが始動 □

本学の個々の研究水準は非常に高く、それぞれの分野での評価も高いものがあります。

本学ではこれらの研究資源を有機的に結びつけ、「世界の頂点」となり得る研究分野の構築を目指しています。

卓越した研究実績があり、世界的研究拠点の形成につながるものを研究センターと位置付け、活動を開始しました。

○宇宙理学研究センター

研究センター長 大橋隆哉 理工学研究所教授

○生命情報研究センター

研究センター長 田村浩一郎 理工学研究所教授

○人工光合成研究センター

研究センター長 井上晴夫 都市環境科学研究科特任教授

○金の化学研究センター

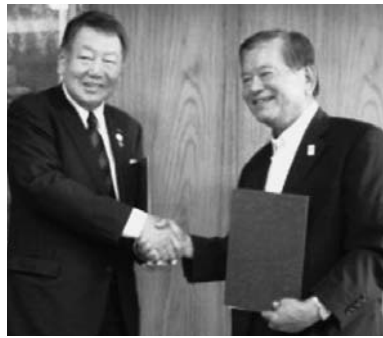
研究センター長 春田正毅 都市環境科学研究科教授

※各研究センターの概要<http://www.comp.tmu.ac.jp/srp/index.html>

□ 荒川区との防災協定を締結 □

2013年8月に、荒川区と「災害時における施設使用及び人的協力に関する協定」を締結しました。

本協定は、荒川キャンパスを荒川区地域防災計画に基づいた医療活動拠点または避難所として提供し、かつ、荒川区が実施する応急対策業務に対して、教職員及び学生が人的な協力を行うことで、地域貢献の役割を果たしていくものです。今後も地域に更なる貢献をまいります。



左 荒川区長 西川太一郎氏
右 理事長 川淵 三郎氏

□ 首都大学東京

Twitterの開始 □

2012年12月から、首都大学東京では新たにTwitterによる情報発信を始めました。開始半年を経過し、フォロワーの数も徐々に伸びており、2000人を超えました。大学が実施するイベントやキャンパス内での日常の些細な出来事、教員のテレビ出演情報までホームページよりもタイムリーな情報を発信しています。

母校の「今」を知るツールとして、ぜひ皆さんもフォロワーの登録をお願いします。

□ 新学部長・系長による体制始動 □

2013年4月より、新学部長・系長による体制がスタートしました。(任期・2015年3月末まで)

- 都市教養学部長 岡部 豊 教授 ☆
- 人文・社会系長 乾 彰夫 教授 ☆
- 法学系長 大澤 麦 教授 ☆
- 経営学系長 桑田耕太郎 教授 ☆
- 理工学系長 可知 直毅 教授 ☆
- 都市環境学部長 西村 和夫 教授 ☆
- システムデザイン学部長 長澤 親生 教授 ☆
- 健康福祉学部長 木下 正信 教授 ☆
- (☆印新任)

□ 2013年4月の入学者概況 □

合格者は下表のとおりです(一般選抜のみ)。

□ 2013年度教員免許更新講習の報告 □

法改正により2013年度から導入された教員免許更新制に伴い、本学では毎年8月に現任教員を対象に講習を開設しています。

合計	健康福祉学部						システムデザイン学部						都市環境学部					都市教養学部										学科・系・コース	合格者 入学者
	システムデザイン学科						都市環境学科						都市教養学科																
	小計	看護学	理学療法	作業療法	放射線	小計	ヒューマン・コンピュータ・システム	情報通信システム	航空宇宙システム	経営システム	インタラクティブ	小計	分子応用化学	建築都市	都市基盤環境	地理環境	小計	経営学系A	経営学系B	経営学系(前期以外)	数理科学	物理学	化学	生命科学	電気電子工学	機械工学			
1,731	163	35	32	33	69	281	54	58	50	52	61	198	62	56	56	24	1,101	44	40	35	46	45	47	56	24	195	340	229	
1,628	205	42	42	42	79	278	61	55	50	52	60	214	65	62	55	32	931	43	44	53	49	48	47	68	20	162	184	213	

2013年度の開設状況

開催日	領域	講習名	講習時間
8月5日(月)～6日(火)	必修	教育の最新事情	12時間
8月7日(水)	選択	授業でのICTとマルチメディアの活用	6時間
8月8日(木)	選択	ICTを活用した授業評価と学習評価	6時間
8月9日(金)	選択	多文化・多民族の共生と教育	6時間
8月9日(金)	選択	数学的な考え方とその応用	6時間
8月12日(月)	選択	高校生物：大変更された教科書での教え方	6時間
8月13日(火)	選択	考える力をつける対話授業法：生物を中心に	6時間

*受講対象者は、更新に必要な必修12時間、選択18時間の合計30時間を受講する。

2013年度は、左表のとおり必修1講座、選択6講座を開設し、受講生は55名でした。
2014年度も開設予定です。詳細は2014年4月中旬頃のHPをご覧ください。
<http://www.kyomenkoshin.tnu.ac.jp>

学芸員養成課程展示室・実習室

小林 加奈
村田 昌則

同窓会報や同窓会WEBサイトでも取り上げていただきましたので、ご存知の方も多くいらっしゃるかと存じますが、2012年度、首都大学東京南大沢キャンパス91年館に「学芸員養成課程展示室・実習室」が開設されました。

これは、同年4月の博物館法施行規則の改正にもなっており整備されたものですが、開室以降、91年館では、学芸員資格取得のための科目の多くが開講されています。首都大学東京では学部を問わず学芸員資格を取得できますので、ここに集う学生は専門も興味も様々です。資格取得の目的を共有しつつ、専門を超えた意見交換の場が持てることは首都大学東京の学芸員養成課程の特色の一つでもあります。

さて当館は学生・教員のほか、学外の皆様にもご利用いただけます。「学芸員養成課程展示室」では学内の7分野（動物系統分類学、植物系統分類学、地形・地質学、日本史学、考古学、社会人類学、芸術学）で保有する研究資料・標本類をご覧いただけます。展示テーマは東京・多摩地区に密着した内容から世界各国の話題……と、多岐に亘りますが、専門的な研究成果を親しみやすくご覧

いただけるよう、身近な話題にひきつけたご紹介に努めておりますので、どなたでも楽しんでご覧いただけるかと存じます。

また展示室の他に、実習設備・教室設備を有する「学芸員養成課程実習室（多目的ホール）」や、企画展にも使用できる入口ホールなど、コンパクトながらも学外の皆様にご利用いただける環境がございます。

そこで、同じく2012年より、大学の研究費を受け、施設を活用する取り組みも始めました（「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」代表・都市教養学部教授 山田昌久）。この取り組みでは企画展・講演会等を開催するとともに学内の標本・資料の保有状況調査も実施しています。これによって、牧野標本館の植物標本以外にも、特色ある学術標本・資料類の存在が多数確認され、情報公開について多くの要望がある事実が明らかになってまいりました。

現在の展示室はまだ小さく、すべてを皆さんにご覧いただくことは難しいのですが、将来的には、専門の方にも一般の方にも、首都大学東京の持つ標本や資料類を便利に活用していただける仕組みを整えていこうと考えています。

我々は学芸員養成課程担当として、この91年館に勤務しておりますが、首都立大学の卒業生でもありますので、この度、寄稿の機会を頂

きました。

なお、展示室は下記の要領で開室しております。ぜひお出かけ下さい。

◆開室時間 11時～17時（観覧無料）
◆休室日 土・月曜日 大学の夏・冬・春季休業期間
※臨時休室有。企画展開催期間は開室致しません。



学芸員養成課程展示室内

小林 加奈
こばやし かな

（07年：首都大・院博士前）
05年東京都立大学人文学部卒。現在首都大学東京大学教育センター特任助教。

村田 昌則
むらた まさのり

（12年：首都大・院博士後）
05年東京都立大学理学部卒。現在首都大学東京大学教育センター特任助教。

7年目の寄付講義

毎年、「産業と企業」のテーマのもとに開講されている同窓会寄付講義は、超人気講義として600人を超える学生が登録をしております。

講師の方々の尽力により、学生の評価は「視野が広がった」などのポジティブなものが、一方「講義時間外での課題の勉強は少ない」などの指摘もありました。

本年は、大学のカリキュラムの見直しがあり、従来、寄付講義が属していた「都市教養プログラム」が、専門科目への橋渡しをする「基盤科目群」の授業になりました。

今年度は、受講学生には、1500字〜2000字のリポートの提出が求められるようになり、受講生のより深い思索と理解が期待されます。実施に当たっては、八雲同友会とNPO法人MeCの協力により、OBの中から会社経営に豊富な経験を持ち、産業の発展に貢献した方、あるいは、ご自分の係わった事業についての話等、下記の方々に講師を委任いたしました。

今回は、都市開発に関するテーマで3名の方々の講義があります。所属する企業の立場による「見方・考え方」の相違をお聞きすることが出来ます。

同窓生の皆様、講義を聴講にお出下さい。
なお、講義は6号館110番教室で3時限(午後1時)です。

第一部 講義の講師および日程

2013年10月10日(木) (金融/保険)

山本 幹男 (都19・法・法律)
フコクしんらい生命保険(株) 代表取締役社長、前富国生命保険相互会社 取締役副社長
「生命保険業界の動向」

2013年10月17日(木) (サービス/事務代行)

吉田 雅俊 (都23・工・機械)
(株)日税ビジネスサービス 代表取締役社長
「新規事業開発と中小企業」

2013年10月24日(木) (メディア)

友部 孝次 (都23・法・政治)
(株)テレビ愛知企画代表取締役社長、前テレビ愛知(株)取締役常務執行役員、元日経広告研究所専務理事、元(株)日本経済新聞社 広告局総務
「メディアと広告」

2013年10月31日(木) (鉄道)

山本 利満 (都18・法・法律)
小田急電鉄(株) 代表取締役社長
「小田急の経営戦略の変遷と箱根エリア戦略」

2013年11月7日(木) (建設/都市開発)

相澤 幸寛 (都21・工・建築)
(株)大林組 執行役員 開発事業本部 本部長
「ゼネコンにおける都市開発事業」

2013年11月14日(木) (不動産)

谷澤 淳一 (都29・経済・経済学)
三菱地所(株) 執行役員 経営企画部長
「丸の内の街づくり」

第二部 講義の講師および日程

2013年11月21日(木)

朝倉 敦子 (都43・法・法律)
東京急行電鉄(株) 人材開発部 課長 前 二子玉川ライズ 運営部 課長
「国内最大規模の民間街づくり事業と今後の展開」

2013年11月28日(木)

伊東 正展 (都9・理・物理)
アイ電子代表取締役社長
「通信の世界を変えた化合物半導体と取組んで40年」

2013年12月5日(木)

大島 英彦 (都37・工・工化)
(株)テルモ 研究開発本部グループ長
「(仮) 医療機器の開発」

2013年12月12日(木)

水野 孝彦 (都11・理・物理)
学校法人水野学園 理事長
「起業のすすめ」

2013年12月19日(木)

石館 陸男 (都12・工・機械)
石館アソシエイツ 代表
「商社の国際ビジネスの経験から」

2014年1月9日(木)

大林 清一 (都25・理・生物)
ライフサイエンス研究所
「食糧生産と日本人の健康」

「表紙のこぼれ」

“The way to the ...”

首都大学東京 美術部 岩崎 慎吾
(都市環境学部 都市基盤環境コース・4年)
突き抜けるような青空と、真っすぐに続く線路が描きたかったのです。手前が青森、奥の山が北海道、地平線付近に津軽海峡を挟んでいるイメージです。高校三年の夏にエンピツで落書きした原画に、大学一年の冬にリメイクしたのがこの作品です。油絵を始めて三枚目の絵で、地平線より下の描き方が今より未熟です。興味深いことに、この絵は見る人によって与える印象が異なるようです。この線路がどこから始まり、どこへ向かっているのかは人によって異なるのかも知れません。しかし、線路は遥か遠くの地を目指し、どこまでも真っ直ぐに続いていきます。(編集部から一言)
多くの名作の中からこの絵を選んだのは、作者が若いこと、青い空の印象的なこと、「線路は続くよ、何処までも…」の歌詞に魅かれ、若いも若きも、くじけずに希望を持って進んで行く、と言いつつ持ちこたえられたからです。

支部だより

北海道支部

事務局長・増川 仁
(都22・工・機械)

第9回(2012年)首都大学東京
同窓会北海道支部総会及び懇親会

さる2012年11月24日(土)午後5時30分から、札幌駅のそばの「KKR札幌」にて「第9回(2012年)首都大学東京同窓会北海道支部総会及び懇親会」を開催いたしました。今年は本部より高橋晃同窓会長にもご来札頂き、合計28名の出席者で行われました。

総会は笠田副支部長(都大20期)の開会宣言と司会で始まり、松田支部長(都大17期)の挨拶、2012年度の会計報告・会計監査報告・懇親事業報告を行い、続いて2013年度懇親事業案の議事審査を中心に審議が行われ、無事に終了いたしました。その後、全員での記念撮影をホテルの写真室で、プロカメラマンに行つて貰いました。

懇親会における恒例の全員スピーチでは、各人の存在をアピールしてもらいました。更に懇親事業として行っている奇数月開催・居酒屋での「二木会」や、年間3回行う「みやこ会ゴルフコンペ」は、既に日時も決まっております。積極的な参加をと担当幹事よりお願いがあり、和やかな雰囲気での全員スピーチでした。その

後は少人数でしたので互いに席を移動し、特に新会員の方には多くの先輩からのアプローチがあったりして、楽しくもにぎやかな歓談をいたしました。



2013年北海道支部総会

北海道には支部名簿に載っている卒業生が現在192名(都大140名・科技大26名・保科大26名)おられますが、札幌が主とはいえ北海道の広い地域に分かれており、参加したくても遠方で出席しづらい方もおられたり、また転動で移動する方も多く、同窓会活動への参加者が減少傾向・固定化しており、新支部会員・新参加者が増えないのが悩みです。全国の同窓会の皆様にお願いがございませう。もし北海道にお住まいの同窓のお知り合いの方がおられましたら、下記にご連絡をいただけたならば幸いです。

ございます。

なお、高橋会長には総会・懇親会終了後有志による二次会にもご参加頂き、いろいろとお話をお伺いすることが出来ました。

高橋会長の突然の訃報に接し、愕然とした状況でしたが、改めまして心よりご冥福をお祈り申し上げます。
増川 e-mail:massie@dpu-netsurf.jp

関西支部

事務局長・根津 嗣郎
(都32・工・建築)

2013年・首都大学東京同窓会
「関西支部の集い」

第20回目の「関西支部の集い」は、3月9日(土) 昨年に引き続き、大阪・本町にある「日本綿業会館」で来賓に本部から加藤副会長を迎え、28名の参加を得て開催いたしました。

開会に先立って会場である重要文化財の「日本綿業会館」を見学するオプションに12名が参加し、大阪船場の過去の繊維業界の繁栄の様を豪華な建築美を通して、実感いただきました。

「関西支部の集い」は、船川幹事(18期)の司会進行で12時30分に、故大久保初代会長(1期卒)を追悼する黙祷を捧げ、開会いたしました。本年度就任の梅村新関西支部会長(10期)の挨拶に続き、来賓の本部

の加藤副会長からご挨拶をいただき、続いて2期近藤前会長の音頭で乾杯を行いました。ひとときの昼食と歓談の後、支部総会を行いました。総会議題は収支決算報告と副会長追加選任の件です。収支決算報告については、事務局 根津(32期)から報告し、全会一致で承認をいただきました。また、副会長追加選任の件については、今後関西支部を代表する評議員に芦沢幹事(17期)に就任していただくべく考えており、追加の副会長として選任したい旨、松見副会長(12期)から説明がなされ、



2013年関西支部総会

全会一致で承認されました。以降は例年通り、時間まで新規参加者、久しぶりの人からのスピーチをいただき、記念写真を撮って閉会といたしました。

関西支部の会員は名簿記載数912名となり、過去最高の人数になりましたが、葉書やメールで「関西支部の集い」開催の連絡を行っても、不参加の返信もいただけない方が多く、意思確認すら苦慮するところでした。せめて、なんらかの連絡をいただければありがたいと思います。また、若い方や都立大以外の卒業生の参加が少なく、会の存続のためにも多くの参加を望んでいます。ご参加いただき、「絆」を深めたいと思っておりますのでご気軽にお越しください。関西在住の皆様、来年も春には「関西支部の集い」を開きますので、是非参加を予定して下さい。また案内経費節約のため同窓会宛にメールの登録をよろしく願います。

連絡先E-mail: nezud202@sage.ocn.ne.jp

- 関西支部 幹事・役員一覧(敬称略)
- 会長 梅村鐵男 都10・工・機械(大阪)
- 副会長 松見豊和 都12・法経・経済(京都)
- 戸沢清隆 都17・工・建築(大阪)
- 事務局長 根津嗣郎 都32・工・建築(兵庫)

幹事

- 大内恵子 都14・人文・英文(兵庫)
- 船川和夫 都18・理・化学(兵庫)
- 鹿谷 勲 都23・人文・歴史(奈良)
- 山井愛樹 都37・理・地理(兵庫)
- 塩見吉伸 都48・工・土木(京都)
- 野本博資 都51・経済・経済(滋賀)
- 岡崎直人 科技大・1995年卒・工・機械(奈良)

*末尾の()内は在住府県名。

九州支部

宮崎県での初のミニ同窓会、歓迎会

宮崎県で東京都立大学と言ってもピンとくる人は少なく、ましてや首都大学東京となるとなおのこと遠い存在です。そんな肩身の狭い中、昨年12月に初めての同窓会を持ちました。きっかけはその半年ほど前に宮崎市役所に勤める都立大学出身の先輩と偶然に市役所で会ったことでした。互いに50代後半に入り、先輩が「二度ぐらいは大学の同窓会というものをしてみたいな」と言うのです。それで、7月に出張で上京した折に首都大学東京同窓会事務局に何うと、後日、必要な情報を教えていただきました。50人近い卒業生に通知を送りましたが、ただその情報は大学卒業時のものが多く、果たしてどれだけの人に届いたのだろうかと思いましたが、結

局は、都立大出身5人、首都大学出身1人の計6人が集まり、焼き鳥屋の個室を使つての初めてのミニ同窓会となりました。50代から20代まで世代も学部も校舎も違い、目黒校舎と南大沢校舎では話を通じない面もありました。しかし、自己紹介をして語り合ううちに先輩後輩の間柄ですから、「また来年やろう」ということで解散しました。

また、この集まりには出席できませんでした。宮崎県で、都立科学技術大学と医療技術短大の卒業生からも連絡がありました。

この春、私の会社に首都大学東京の卒業生が入社しました。ミニ同窓会に来ていた首都大学東京の出身者も交え3人でミニ歓迎会をこの8月に開きました。20代の二人の話聞いてみると、南大沢では冬は必ず雪が積もるとか、どの校舎の屋上から富士山がよく見えるとか私がいた目黒校舎では想像しにくい話をして盛り上がっていました。ミニ同窓会、さらにミニ歓迎会といずれも小規模ではありますが、首都大学東京同窓会の絆は若い世代へとつながってきております。

(東京都立大学法学部出身・1998年度卒業、宮崎日日新聞社勤務・和田 雅実)

今年3月に卒業し、弊社に入社した後藤真之介さんのコメントは以下の通りです。

2013年度新規参加評議員のご紹介
新たに評議員をお願いする方々を紹介いたします。宜しく願い申し上げます。また、評議員就任の申し出を期待しております。

- 跡部 輝彦 都10・工化
- 西村 尚 都11・機械
- 石館 陸男 都12・機械
- 池辺 一男 都13・生物
- 黒石 頼 都14・経済
- 八ッ橋 武明 都15・物理
- 久保田 丈夫 都18・電気
- 大久保 正雄 都19・経済
- 中村 貴司 都42・経済



後藤真之介
(首都大学東京・都市環境学部・地理環境コース、2012年度卒業)

8月16日夜、会社の先輩である和田雅実さん、宮崎県小林土木事務所池野拓也さんが首都大学東京同窓会として歓迎会を開いてくれました。二人の大学時代の話や、共通の話題で盛り上がりました。東京から遠く離れた同じ宮崎の地で大学の先輩が活躍されていると知りとてもうれしく、自分もこれから先輩のように宮崎のために頑張っていきたいと思えました。今後も定期的に集まり、親睦を深めていけたらいいと思います。

■ 同窓会事務局からのお知らせ ■

□ 会費の払込みと住所・勤務先等の変更届のお願い □

維持会費は、同窓会活動にとって、貴重な財源です。

様々な活動の基になる同窓会名簿の整備、現役学生への支援、会報の発行、様々な行事の実施等の活動資金となります。

□ 維持会費は、年額3千円です。

□ 終身会費制度もあります。3万円の一括納入で以降、年会費の納入は不要です。

会費は、本会報に同封の「払込取扱票」（赤色で印刷された用紙）による納入をお願いします。払込は、郵便局かコンビニでできます。

利用可能なコンビニは、「払込取扱票」の裏面に掲載してあります。

住所などに変更があった場合は「住所等変更届」を使用し、該当欄各項目を記載し、ファックスか郵便で「一報ください」。

連絡先

首都大学東京同窓会事務局

〒192-0364 八王子市南大沢1-1

首都大学東京内

電話&ファックス 042-670-7702

e-mail: tmu-ai@tmu.ac.jp

担当 小松・杉村

【参考】

首都大学東京同窓会規約

（会員の責務）

第6条 会員は、本会の事業に積極

的に参加し、会費等の納入を果たし、住所、氏名及び勤務先の変更があったときは、速やかに変更事項を本会事務局に届け出るものとする。

（入会金）

第7条 本会の入会金は、2万円とし、大学の学部又は大学院に入學したときに納付するものとする。

（会費）

第8条 本会の会費年額は、次のとおりとする。

1. 正会員 3千円 ただし3万円を一括納付する事により以後、年会費を納付することなく、終身会員とすることが出来る。

2. 特別会員 正会員に準ずる。

3. 賛助会員 1口5万円

4. 名誉会員 納付を要しない。

（入会金・会費の不返還）

第9条 既納入会金、会費及びその他の拠出金は、これを返還しないものとする。

□ 会員の皆様へ

『会費納入状況欄』のご説明 □

毎回の会報に同封の【年会費納入状況】欄についてのご説明。

赤字で印刷された同封の「会員の皆様へ」をご覧ください。

(1) 2005年10月発行のTMU第1号までは、維持会費の払込は、「郵便振替払込票」の払込金額記入欄に、本人自身で、納入金額を記載してい

ただいていました。2006年5月からは、払込の利便性を考え、従来の郵便振込に加えてコンビニでも払込できるようにいたしました。

コンビニ利用の場合の、システム上の制約から、年会費3,000円と終身会費30,000円を払込票の金額欄に併記印刷することになりました。

(2) 同窓会の年会費の納入は、年度

（4月～3月）により管理しています。

会報は、年2回、5月と11月に発行しています。「会員の皆様へ」のお願いと会費払込票は会報に同封させていただきます。

(3) 納入状況の表示について

【A】 納入状況については、お支払いを頂いている方については、年度ごとに払込票に「納入済」を印字しております。

【B】 毎年度3月31日現在、および9月30日現在の納入状況を記載させていただきます。

(4) 次期以降の維持会費を余分に お支払いいただいた方については、会員管理台帳上、「預り金」として、管理いたします。

(5) 同一年度内に重複（2回）して払込をされた方については、当年度を含めて4年以内に未納の年度がある場合には、その年度分に充当させていただきます。また、未納がない場合には、「預り金」として管理して、次年度になった時点で、

当年度分として、入金処理をさせていただきます。

(6) 「個人情報保護」の観点から、払込票には住所を記載せず、***のように表示しております。

□ 会報送付先についてのお知らせ □

会報は、皆様からお届けいただいている現住所のほか、指定された留守宅、実家、勤務先にお送りしております。

お送りした会報は毎回、発送部数の約2%、600部前後が転居先不明で戻ってきます。送付先に変更があった時は、かならず同封の送付先変更届の提出をお願いします。

送付先変更届けは、ファックスで送っていただければ結構です。ファックス送信の際、FAX送信面の裏表を、確認してお送りくださるようお願いいたします。毎回、10名程度の方から白紙のファックスが届き、住所を確認できません。

□ 維持寄付等について □

新しい寄付制度による「維持寄付」については、皆様のご協力により、770名弱の皆様から、400万円を超えるご寄付を頂きました。

9期の収支の改善に、大きな力となりました。大変ありがたく、感謝申し上げます。

なお、現役学生に対する支援（左記をご覧ください）は、同窓会とし

でも、積極的に行うことを目的にしており、さらなるご協力を願う次第です。

学生への主な支援策

(総額300万円～350万円)

- 1 大学祭等学生の課外活動への支援(70万円)
- 2 対大阪府立大学総合競技大会への支援(120万円)
- 3 学生の自主的な活動への支援(70万円)
- 4 成績優秀者の表彰(50万円)
- 5 寄付講義に関する経費(40万円)

□同窓会行事報告と予定□

2013年

- 10月18日(金)第65回理事会
 - 10月31日(木)会計監査
 - 10月19日(土)～20日(日)荒川キャンパス大学祭「第29回青鳩祭」
 - 11月3日(日)～5日(火)南大沢キャンパス大学祭「第9回みやこ祭」
 - 11月20日(水)第66回理事会
 - 12月12日(木)第10回評議員会
- 2014年
- 1月15日(水)第67回理事会
 - 1月26日(日)第10回総会・新年会
 - 於 浜松町 アジュール竹芝
 - 3月19日(水)第68回理事会
 - 5月21日(水)第69回理事会
 - 7月16日(水)第70回理事会
 - 9月17日(水)第71回理事会

□叙勲等を受けられた

同窓会会員の皆様
受章おめでとうございます□

2003年春

勲四等瑞宝章 久保木哲彦氏

(都立大学 第4回卒 人文学部)

2009年春

瑞宝小綬章 渡部 邦夫氏

(都立大学 第18回卒 人文学部 教育学科)

2011年春

瑞宝中綬章 高村多賀子氏

(都立大学 第3回卒 理学部 数学科)

2013年春

瑞宝重光章 松山 恒昭氏

(都立大学 第13回卒 法経学部 法学科)

(*褒章など受章された会員をご存知の方は、ご連絡ください。)

□同窓会の学生への支援活動□

(1) ファイティングスピリット賞

2013年3月19日

(2) プロジェクト奨励賞

2013年7月23日 4件に授与

(3) 課外活動への支援

大学祭

・2012年10月21日～22日

第28回青鳩祭(荒川キャンパス)

・2012年11月1日～5日

第8回みやこ祭

実行委員会等(60万円)

大阪府立大学総合競技大会(61回)

・2013年7月5日～7日

首都大学東京で開催

体育会本部(60万円)

首都大学東京15勝11敗1引分

(通算24勝33敗3引分1中止)

(4) 学生への支援

2013年9月24日

成績優秀者表彰を受けた学生に

対して、記念品を贈呈(149名)

(5) 大学との共催

2013年3月19日

スポーツ・文化活動賞

3団体に対して9万円贈呈

(6) 就職活動への支援

OBによる就職活動相談

(キャリア支援課)

2名の同窓生を派遣

・同窓生就職先名簿の閲覧(同窓会事務室)

□大学行事予定□

入試関係

2014年1月18日(土)～19日(日)

センター試験

2月25日(火)～26日(水)前期日程

3月12日(水) 後期日程

卒業式(2013年度学位授与式)

2014年3月20日(木)

東京体育館

同窓会は、成績優秀者に記念品

を贈呈する予定(8名)。

入学式(2014年度)

2014年4月8日(火)

東京国際フォーラム

第62回対大阪府立大学総合競技大会

2014年7月4日(金)～6日(日)

(予定)

於 大阪府立大学

臨時会報8号に記載漏れのおつた退職教授

酒井 亨平 教授

都市教養学部・国際文化コース

名誉教授の称号を授与された先生方
(2013年4月1日付)

上野 淳	副学長・都市環境学部	教授	
鄭 大均	都市教養学部	社会学	教授
市原 茂	都市教養学部	心理学・教育学	教授
前田 庸介	都市教養学部	国際文化	教授
井出 光	都市教養学部	国際文化	教授
瀬尾 育生	都市教養学部	国際文化	教授
福岡 健二	都市教養学部	国際文化	教授
森山 茂徳	都市教養学部	政治学	教授
中塚 利直	都市教養学部	経営学・経済学	教授
宮川 彰	都市教養学部	経営学・経済学	教授
マーティンゲスト	都市教養学部	数理学	教授
佐藤 英行	都市教養学部	物理学	教授
鈴木 徹	都市教養学部	物理学	教授
溝口 憲治	都市教養学部	物理学	教授
前田 研一	都市環境学部	都市基盤環境	教授
市川 憲良	都市環境学部	建築都市	教授
深尾 精一	都市環境学部	建築都市	教授
後藤 保正	健康福祉学部	理学療法	教授
柳澤 健	健康福祉学部	理学療法	教授
里村 恵子	健康福祉学部	作業療法	教授

第9回首都大学東京同窓会評議員会 議事録抜粋

本文中（資料参照）とあるのは、当日配布された資料参照の意味。

日時 2012年12月6日（木）

18時30分～19時30分

場所 四谷 スクワール麹町

出席者 会長 副会長3名

評議員65名 委任状45名

合計110名

定足数67名

（現評議員数202名の1/3）

事務局2名

一、開会

二、議長選出

定刻、加藤充子副会長が仮議長席に着き開会宣言し、大塚昶之助副会長（総務委員長）を議長に推薦、拍手をもって承認。議長が定足数を確認後、山本春夫理事を書記に指名し議事に入った。

三、高橋晃会長挨拶と活動報告

会長に就任してから丁度1年になる。4

項目の目標を掲げた。学生支援、大学との

協力、会員の交流の活発化、他大学同窓会

との連携である。歩みは遅々としている。

30代から40代の参加が少なく、およそ6万

名いる会員のうち3万名ほどの住所が分つ

ている。諦めずにやりたいので、ご協力を

お願いしたい。次に同窓会の第8期の活動

報告がなされた。（資料参照）

(1) 会報の発行 2回

(2) 総会・新年会の開催

2012年1月15日

(3) 理事会を7回開催

(4) 評議員会の開催

2011年12月8日

(5) 支部総会の開催

九州支部、関西支部 会長出席

(6) 群馬支部の設立

設立総会 2012年6月24日

会長出席

(7) ファイティングスピリット賞贈呈

2012年3月27日 第4回 4件

(8) 学生の課外活動支援

大学祭実行本部への支援

(9) 大阪府立大定期戦（於：大阪）

みやこ祭における講演会の提供

(10) 2012年度スポーツ・文化活動賞

の贈呈

・2012年度成績優秀者表彰

・寄付講義への講師派遣

・「OB・OG交流会」の後援

(11) 八雲サロンを12回開催

(12) 収支改善のための特別委員会の開催

7回

(13) 寄付金制度の改定の提案

首都大学東京卒業式

(14) 成績優秀者へ記念品を贈呈

首都大学東京入学式

於：国際フォーラム

以上で会長挨拶と活動報告が終了。大塚

議長が了承を求め、拍手多数で了承された。

四、議題

(1) 収支改善のための特別委員会の報告

（資料参照）

大塚議長から、山本企画委員長と吉田財

務委員長が交代で委員会の司会進行を行っ

たと報告された。吉田財務委員長から山本

企画委員長の作成した報告書に基づき次のことが説明された。

・始めと経緯

2009年に繰越金減少が年500万円に

もなり危機感が出た。その後2011年

から7回に及ぶ委員会を開催し次の結論

となった。

・結論

2010年、2011年と収支が改善

され繰越金減少が150万円となった。した

がつて従来の事業はこれからも行える。

寄付金制度の改定を行う。

・寄付金制度の改定の内容

目的寄付、維持寄付、終身会員からの

寄付の3種としてお願いする。寄付につ

いては特別会計で処理する。

なお、吉田財務委員長から目的寄付の

説明の中で学生個別支援の規程について

は検討中である、との説明があった。

大塚議長から質疑が求められた。

Q：高森貞彦（都17期土木） 個人からの

寄付は税金の控除になるか。

A：大塚議長 ならないと思う。

Q：吉原信男（都11期化学） 繰越金減少

が500万円から150万円になった理由は何か。

A：おもに入会者が増えたためである。

以上、拍手多数で了承された。

(1) 第8期決算報告（資料参照）

吉田俊雄財務委員長が、第8期決算案

（2011年10月1日～2012年9月30

日）を説明し審議に付された。

・第8期は 収入2,920万円

支出3,070万円

当期不足額 150万円

・入会金は 2,050万円

・年会費は 140万円（460名）

・終身会費は 510万円（170名）

・寄付金は 160万円

その他決算案について詳細に説明。

第8期決算報告の会計監査

大熊洋一監事から適正との報告があり

① 収支削減の方策を検討すべきであ

る

② 会費の収入増の方策について

③ 収入と支出の均衡を図るように努

力してもらいたい

との発言があった。

大塚議長が質疑を求めたが、質疑はなく

拍手多数で承認された。

(2) 第9期予算案（資料参照）

吉田財務委員長が第9期予算案（201

2年10月1日～2013年9月30日）につ

いて説明し、審議に付された。収支改善特

別委員会の結論による。

・第9期予算（一般会計）

収入 3,270万円

支出 3,270万円

今期は寄付金を特別会計で処理するた

め、一般会計においては収入の部に「繰入

金」の項目を新設した。

・第9期予算（特別会計）

寄付による収入について管理することを

目的としている。

収入 540万円

支出 540万円

一般会計への「繰越金」は、寄付金の収

入の範囲で行う。

大塚議長から質疑が求められた。

Q..久保義丸(都42期法) 学生個別支援

でプロジェクト奨励賞とあるが、企画だけの段階では疑問がある。NPOや創業は金儲けであり、それに支援するののか。

A..大塚議長 リスクは承知である。今回は企画やプロジェクトに対して援助するものは限定的とする。将来は成果が帰ってくる。

Q..根谷崎武彦(都10期化学) インキユベーションとしてみればどうか。

Q..木村軍司(都14期電気) 新入会員が60%の入会では少ない。メリットを出す

と良い。

A..小松芳雄事務局長(都11期経済) 同窓会のメリットは難しい。

A..大塚議長 大学からの新入生の名簿の提供はない。入会金を受け取る時、個人情報をもろう、あるいは、キャリア支援課から、進路届を受け取るなど個別には

やっている。

Q..黒川 信(都28期生物) 5万人もの会員がいても協力者が少ない。また、大学とうまくいっていない。大学には100人の同窓の教員がいる。同窓会活動に参加してもらいたい。

Q..吉原信男(都11期化学) 名簿を作ったかどうか。

A..大塚議長 本人の同意があるので、出来たとしても、名簿の体をなささない。

大塚議長から、第9期予算案について承認が求められ、拍手多数で承認された。

五、閉会

大塚議長から第9回評議員会の閉会が告げられた。別室に移り、和やかに懇談を行った。

第9回首都大学東京同窓会総会 議事録抜粋

文中(資料参照)とあるのは、当日配布された資料を参照の意味。

日時 2013年1月26日(土)

13時30分~14時

会場 南大沢キャンパス

国際交流会館大会議室

出席者 会長 副会長4名

理事 評議員 正会員 計202名

事務局 2名

一、開会

榎本昌史副会長(科7期機械)が司会者となり、開会を宣言した。

二、会長挨拶・活動経過報告

規約により高橋 晃会長(都15期化学)が議長となり、山本春夫理事(企画委員

長、都10期化学)を書記に指名した。

・会長挨拶 要旨 「おめでとございませう。運営方針は学生への支援、大学との協力、会員相互の交流、他大学また近隣との親善をあげています。成果はすぐ出るものではありませんが努力を続けてまいります。財務健全化を目指します。」

次に、前回総会からの1年間の活動が報告された。

・活動経過報告(資料参照) 会報8号の発行と臨時会報の発行

(1) 総会・新年会の開催 2012年1月15日

(2) 理事会を7回開催

(4) 第9回評議員会を開催 2012年12月6日

(5) 支部総会の開催と出席 北海道支部 九州支部 関西支部

(6) 新支部の設立と支部総会への出席 群馬支部設立総会

(7) 2012年6月24日(日) ファイティングスピリット賞贈呈

(8) 2012年3月27日(火) 学生課の課外活動支援と出席

(9) 第9回 みやこ祭 第28回 青鳩祭

(10) 第61回 大阪府立大定期戦 スポーツ・文化活動賞の贈呈

(11) 2012年成績優秀者表彰 寄付講義への講師派遣

(12) キャリア支援課の「OB・OG交流会」を後援

(13) 八雲サロンを12回開催

(14) 収支改善のための特別委員会の活動 寄付金制度の改訂の提案を行った。

(15) 卒業式 於：国際フォーラム 出席 2012年3月21日(水) 開催

(16) 成績優秀者へ記念品を贈呈 入学式 於：国際フォーラム 出席

(17) 2012年4月7日(火) 開催

(18) 質疑は次の議題の後でまとめて行うこととした。

(19) 次に大塚昶之助評議員会議長(副会長都6期法)から評議員会報告がなされた。

(20) 三、評議員会報告(資料参照)

(21) 第8期(2011年10月1日~2012年9月30日) 決算について

3年前は500万円の赤字であったが、今回は年150万円まで圧縮した。収入が2,920万円で支出が3,070万円となっている。繰越金は5,100万円である。

(2) 収支改善特別委員会で検討した。理事会で出た105件の意見をもとに検討し、結論を出した。寄付金制度の改訂と特別会計の創設を行う。目的寄付と終身会員からの寄付を新たにする。

(3) プロジェクト奨励賞について ファイティングスピリット賞についてプロジェクト奨励賞を設けた。学生を支援するもので、結果を求めるとはならず、良い企画を奨励するものである。

(4) 第9期(2012年10月1日~2013年9月30日) 予算について

寄付による特別会計を創設したので、一般会計との間で繰り出し繰り入れを行う。一般会計の収支過不足は「0」としてある。不足が出た時は理事会の責任となる。ご理解を願いたい。

なお、評議員会での審議について大塚評議員会議長から説明があり、了承された報告があった。

ここで、高橋議長から審議が求められた。特に質疑はなく、会長報告と評議員会報告は、拍手多数で承認された。

四、閉会

末光イベント委員長(都20期心理)から新年会の説明があり、榎本副会長から閉会が告げられた。

出席者は新年会会場に移り招待した大学関係者、学生を含め賑やかな懇談を行った。

寄付金受領のお礼

収支改善委員会のご報告とお願い

維持寄付へのご賛同ありがとうございました。

財務委員会委員長

吉田 俊雄 (都 19・数学)

新しい寄付制度による「維持寄付」については、皆様のご協力により、終身会費の納入後10年以上を経過された方々約8,000名のうち、約1割の800名に近い皆様から400万円を超えるご寄付を頂きました。

今期の収支改善に、大きな力となりました。

ここに寄付を頂いた方々のお名前を記し、感謝の意を表します。ありがとうございました。

次期以降におきましても、財政基盤の安定のために、なにとぞ、多くの皆様方のご協力をお願いいたします。

現役学生に対する支援は、同窓会としても積極的に行うことを目的としておりますので、さらなるご協力をお願いいたします。

(参考)

I 維持寄付

1. 終身会員で10年以上の方 約770名 410万円

2. その他の方 約120名 120万円

II 目的寄付

約50名 55万円

(人数は、延べ人数です)

終身会費を納入後10年を経過した会員へお願いした「維持寄付」

2013年10月4日現在

氏名	卒期	学科	神山 二郎	3	工化	山本 昭	4	工化	定藤 常蔵	6	電気	小島 敏郎	7	法学
石崎 富江	1	法学	岩戸 輝雄	3	電気	前川 正泰	4	経済	戸田 彰	6	物理	大津 輝男	7	法学
宮野 三郎	1	物理	市川 比良久	3	生物	深野 松三	4	物理	田中 千年	6	生物	清水 正夫	7	電気
矢代 隆二	1	電気	宮井 睿	3	経済	川久保 昇	4	経済	大塚 昶之助	6	法学	工藤 健蔵	7	法学
小林 忠雄	1	経済	服部 昭雄	3	経済	細川 義政	4	機械	立川 洋子	6	化学	加藤 雄三	7	経済
西田 滋	1	工化	細田 昭	3	法学	桑田 昇	5	数学	三谷 和久	6	土木	田嶋 正	7	工化
河村 襄	1	工化	南 和延	3	経済	笠巻 弘道	5	機械	久米 康雄	6	工化	石井 暢夫	8	機械
服部 敬道	1	経済	工藤 虎雄	3	経済	原 宏康	5	法学	高橋 英雄	6	機械	鈴木 武志	8	機械
長谷部 和夫	1	土木	吉野 泰司	3	経済	山崎 秀高	5	機械	矢島 明彦	6	法学	小林 孝	8	機械
加藤 政雄	1	土木	城 健市	3	工化	神山 洋	5	土木	神宮字 剛	6	経済	近藤 裕	8	中文
西原 良治	1	建築	森 久芳	3	化学	小石 真純	5	化学	山口 喜市郎	6	土木	市川 正	8	工化
澤野 和彌	1	電気	長野 貞夫	3	経済	広岡 昇	5	化学	竹林 基	6	経済	大友 英文	8	機械
澤野 美奈子	1	仏文	三ツ木 和照	3	英文	小松原 久夫	5	英文	沢西 義博	6	社会	平島 弘二	8	法学
池田 清則	1	工化	笹川 和郎	3	建築	本多 祥延	5	工化	庄司 四郎	6	建築	渡辺 陸雄	8	電気
米満 澄	2	物理	台 博	3	経済	西村 昇	5	機械	澤井 泰	7	法学	藤岡 昭	8	経済
市川 富士夫	2	化学	那須 貞美	3	史学	小川 吉造	5	経済	中山 弘	7	化学	蒲田 哲也	8	経済
佐々治 一郎	2	化学	塚田 悠治	3	機械	山崎 俊男	5	教育	渡辺 弘吉	7	機械	澤井 佳子	8	法学
小林 伸光	2	機械	真鍋 忠恒	3	電気	井上 隆	5	電気	安江 弘	7	法学	水嶋 眞治	8	経済
小柴 恭男	2	電気	大池 秀夫	4	経済	肥沼 孝司	5	建築	曾根原 隆士	7	工化	石岡 義久	8	経済
内山 榮一	2	経済	徳重 計輔	4	経済	田戸 啓司	5	工化	長谷川 滋	7	数学	市川 進	8	電気
藤本 啓介	2	機械	平林 稔	4	土木	村山 祥彦	5	経済	坂井 端雄	7	化学	矢崎 育子	8	生物
廣瀬 太郎	2	経済	山口 英生	4	法学	片倉 比佐子	5	日東	澤渡 永吉	7	物理	石井 勝彦	8	経済
鈴木 喜久	2	物理	鈴木 功	4	建築	生天目 綾子	5	数学	佐藤 信一	7	電気	相山 豊	8	工化
進藤 信昭	2	経済	長谷川 伸一	4	電気	秋山 修	5	電気	田中 英	7	建築	池田 昭	8	経済
田中 和夫	2	土木	山縣 英明	4	人文	鈴木 基之	5	建築	湯原 美陽子	7	国文	下山 昌孝	8	機械
平本 雅彦	2	法学	関 郁夫	4	工化	岸 薫	5	法学	村上 直敏	7	法学	井澤 浩一	8	機械
後藤 武	2	独文	斎藤 真之助	4	土木	桜井 照久	5	経済	三橋 省三	7	経済	佐々木 莞雄	8	経済
市川 政春	2	電気	畠山 正俊	4	機械	山田 直利	5	経済	君塚 宏	7	機械	重原 好次	8	化学
今井 省吾	2	心理	長沼 真澄	4	哲学	菊池 雅子	6	独文	高野 保夫	7	法学	内田 道夫	8	化学
川島 岩治	2	経済	川井 克倭	4	法学	遠藤 利雄	6	機械	榎本 一雄	7	電気	大山 俊之	8	化学
大瀧 敏夫	2	法学	西田 健彦	4	電気	宮川 喜晃	6	経済	河内 一泰	7	経済	上野 恭義	8	電気
澤村 幸子	2	英文	角田 光雄	4	化学	石原 健	6	経済	松本 英夫	7	建築	竹内 則夫	8	電気
平田 悦朗	2	経済	戸井 正一	4	経済	松室 三郎	6	工化	立川 家齊	7	化学	遠藤 良治	8	機械
渡邊 英二	2	経済	久世 逸郎	4	工化	中杉 録郎	6	機械	榑崎 學	7	電気	高橋 清治	9	法学
木下 晴美	3	工化	富田 康太郎	4	経済	星野 秀太郎	6	経済	太田 浩司	7	化学	加藤 英男	9	法学
鈴木 知行	3	英文	村上 直	4	日東	石渡 名澄	6	化学	長谷川 好美	7	機械	山口 武	9	経済
本谷 勲	3	生物	神田 二男	4	政治	田中 毅	6	法学	八塚 亨	7	機械	所 弘之	9	経済
岡本 芳己	3	機械	平田 恭	4	物理	芦川 和夫	6	機械	長田 菊江	7	社会	太田 一穂	9	電気
原 富士夫	3	経済	野口 三郎	4	機械	齊藤 博	6	経済	牧田 信行	7	法学	井上 真澄	9	経済

中川	康彦	9	機械	伊藤	朋恭	10	化学	松見	豊和	12	経済	大澤	昭夫	14	生物	山本	勝年	16	機械
林	信志	9	社会	横山	民司	10	独文	星銅	孝生	12	建築	後藤	泰三	14	建築	倉橋	昌司	16	化学
窪田	正毅	9	機械	新海	邦治	10	哲学	松原	卓朗	12	法学	山本	とも子	14	生物	小泉	一太郎	16	哲学
小山	清	9	機械	西尾	正嗣	10	工化	堀部	晋	12	地理	高見沢	邦郎	14	建築	喜入	博	17	地理
長谷川	良佑	9	化学	郡司	弘一	10	機械	中澤	勳	12	電気	増田	恭次郎	14	生物	森	季一	17	工化
田嶋	縵子	9	化学	伏谷	哲夫	10	経済	松浦	範男	12	電気	皆川	有一	14	建築	芦沢	清隆	17	建築
田嶋	和夫	9	化学	紀室	正	10	英文	下田	俊雄	12	電気	来住	賢一	14	工化	武藤	茂	17	電気
加藤	充子	9	経済	青山	正男	11	経済	滝沢	英男	12	機械	堀	英之	14	機械	平林	昇	17	経済
加藤	義男	9	土木	小島	龍昭	11	工化	高田	俊雄	12	経済	大部	一夫	14	化学	堀	那華雄	17	化学
伊達	英雄	9	法学	浅野	繁夫	11	経済	蠟山	紀夫	12	電気	森	忠保	14	物理	竹内	治雄	17	物理
橋場	和夫	9	建築	戸田	正之	11	電気	佐久間	義一	12	法学	上岡	宏	14	哲学	堀本	芳春	17	建築
市原	醇郎	9	生物	梅田	一好	11	機械	前田	淳	12	法学	河合	芳雄	14	数学	功力	誠治	17	機械
鷺宮	秀幸	9	物理	高橋	義哉	11	法学	嵩	哲夫	12	機械	安部	完治	14	工化	佐々木	稔	17	経済
簀戸	徳彦	9	土木	柳川	義晴	11	経済	力村	周一郎	12	法学	小俣	正道	14	経済	木村	宏一郎	17	史学
斎藤	久雄	9	法学	増渕	久一	11	経済	江上	生子	13	生物	中村	哲夫	14	物理	鈴木	晋一郎	17	化学
林	秀剛	9	生物	赤津	千鐘	11	経済	村松	叡	13	電気	佐治	弘志	14	経済	村井	勝美	17	法律
高野	徹	9	電気	田中	慶次	11	電気	松園	典子	13	人類	田口	裕	14	経済	神原	宏臣	17	経済
浅賀	英雄	9	電気	富士原	由夫	11	建築	田辺	明彦	13	経済	北澤	清司	14	土木	浜地	真	17	数学
草野	弘久	9	土木	新谷	勝	11	経済	高野	六雄	13	機械	高梨	直人	15	電気	井上	弘明	17	電気
宮野	昭	9	数学	諏訪	淳嗣	11	機械	時吉	寛	13	土木	山梨	幹子	15	仏文	石橋	憲	17	物理
青木	義典	9	土木	吉田	勝彦	11	生物	晝馬	俊治	13	電気	古畑	正道	15	法律	鈴木	実	18	建築
保阪	達彦	9	電気	大久保	全陸	11	建築	岩田	正之	13	経済	三弊	史郎	15	電気	和賀井	宗孝	18	地理
東	和子	9	化学	大槻	晃	11	化学	小野寺	律	13	経済	岩崎	守	15	機械	建松	和雄	18	建築
村上	征一	9	経済	三輪	喬	11	化学	友野	啓康	13	電気	藤井	利宣	15	化学	菅森	茂	18	電気
藤沢	健二	9	物理	白崎	隆之	11	物理	玉城	成夫	13	化学	西村	成雄	15	日東	柏	正博	18	機械
神作	順子	9	心理	杉山	治男	11	物理	村上	治義	13	機械	高橋	勝	15	電気	平手	愛子	18	数学
齊藤	三与志	10	経済	小磯	信夫	11	経済	庄司	國昭	13	建築	白銀	征太郎	15	機械	中拂	昭史	18	土木
村野	博敏	10	土木	木村	由紀子	11	英文	入江	紘一郎	13	電気	三木	武夫	15	建築	清水	誠	18	経済
江幡	吉信	10	経済	根岸	伸幸	11	機械	山下	保則	13	社会	鶴田	光子	15	物理	井出	義男	18	機械
木村	章義	10	経済	森	佐美雄	11	電気	鶴岡	実	13	経済	道家	建二郎	15	生物	相沢	俊夫	18	工化
梅村	鐵男	10	機械	大関	誠	11	電気	田中	孝男	13	機械	根本	洋	15	土木	赤星	經昭	18	法律
水谷	光一	10	経済	横手	久典	11	機械	村田	忠義	13	物理	浜田	敏男	16	電気	朝比奈	まさえ	18	史学
井出	明賢	10	機械	小林	清	11	建築	福田	圭助	13	法学	藤井	信吾	16	経済	田辺	安夫	18	経済
梅沢	一夫	10	経済	森地	重暉	11	土木	小寺	正孝	13	建築	土井	明夫	16	経済	山口	一則	18	政治
中野	雅博	10	経済	佐藤	泰生	11	土木	小林	敏男	13	化学	孤島	法夫	16	土木	山田	敏夫	18	法律
木津	克司	10	法学	今村	範子	11	数学	喜多村	允彦	13	経済	館	裕	16	法律	池田	信男	18	政治
細谷	章夫	10	哲学	瀬尾	貞善	11	経済	新島	溪子	13	生物	阿部	佑	16	経済	服部	兆隆	18	化学
関	義信	10	経済	石井	淑夫	11	化学	三條	洋次郎	13	建築	印東	卓雄	16	機械	荒井	吉枝	18	生物
小川	周夫	10	物理	甲斐	興一	11	経済	佐藤	義憲	13	電気	北村	直樹	16	土木	平松	輝雄	18	機械
跡部	輝彦	10	工化	篠木	昭夫	11	法学	森	正昭	13	電気	三島	祥孝	16	法律	鈴木	一吉	18	経済
吉川	武	10	建築	吉本	幸一	11	経済	武藤	達	13	電気	吉田	邦弘	16	電気	井出	宣雄	19	土木
菊地	比呂志	10	法学	西川	宏	11	化学	末武	紘子	13	社会	大野	博昭	16	化学	村山	清	19	化学
杉浦	治人	10	法学	早崎	淳	11	化学	関屋	修	13	法学	河井	信	16	経済	岡野	進	19	数学
石渡	昭夫	10	電気	西村	尚	11	機械	諏訪内	幹弘	13	機械	山口	美咲	16	国文	村田	理	19	物理
佐藤	康生	10	機械	大関	誠	11	電気	大熊	輝興	14	経済	岩橋	慎夫	16	化学	橋本	悟	19	電気
山本	春夫	10	化学	望月	將地	11	土木	川辺	昇	14	法学	樋口	勝美	16	法律	中伏	外志男	19	土木
松島	弘一	10	物理	田崎	篁史	12	化学	座間	宏治	14	機械	中世古	昭一	16	法律	菅原	英介	19	法律
当津	純一	10	生物	柴崎	昱太郎	12	経済	森脇	靖子	14	生物	小川	雄二郎	16	土木	小西	良造	19	電気
斎藤	篤二	10	機械	海老澤	和明	12	法学	黒石	輯	14	経済	米元	金次郎	16	数学	池ノ谷	保男	19	機械
小花	隆司	10	物理	松島	忠久	12	化学	池上	恵子	14	英文	川瀬	祥一郎	16	土木	奥野	求理	19	法律
佐藤	喬亮	10	化学	荒田	貴次	12	電気	石川	美智子	14	化学	新井	制	16	工化	並木	和久	19	機械
中島	忠行	10	土木	津田	充利	12	工化	中島	知行	14	機械	今井	信一	16	工化	久保	信一	19	法律
館	義和	10	経済	伊藤	利久	12	経済	石橋	正紀	14	数学	小嶋	龍吉	16	経済	本橋	唯弘	19	政治
菅野	則子	10	日東	本間	景介	12	工化	安藤	忍	14	生物	大田	正彬	16	経済	佐藤	美千子	19	経済
市岡	康子	10	社会	伊藤	榮子	12	工化	太田	正明	14	数学	中谷	透	16	経済	蔵田	道子	19	史学

大久保	正雄	19	経済	栗山	孝一	22	土木	戸張	馨	25	機械	佐久間	守宏	29	工化	池田	英司	33	法律
矢島	一敏	20	心理	鹿田	正一	22	土木	今井	友久	25	物理	松元	弘一郎	29	法律	塩月	知道	33	土木
鈴木	敏郎	20	土木	斎藤	泰一	22	電気	矢沼	彰	25	経済	西島	剛志	29	物理	高橋	朋子	33	法律
篠崎	卓	20	経済	水嶋	純一	22	政治	鈴木	次雄	25	法律	大畑	裕嗣	29	社会	犀川	正之	33	機械
石井	望	20	電気	廣瀬	省蔵	22	建築	市原	昭	25	土木	三浦	克典	29	電気	落合	伸一郎	33	機械
関谷	守昭	20	哲学	杉山	由彦	23	経済	小林	桂一	26	機械	森田	真一	29	物理	黒沢	義輝	33	法律
七条	泰法	20	法律	宮腰	徹	23	経済	加藤	裕	26	法律	田中	克美	29	工化	深山	昌敬	33	物理
長谷川	健	20	経済	吉田	聡	23	経済	海老名	もも子	26	生物	伊藤	彰	29	法律	荻原	仁恵	34	史学
松原	清	20	工化	阿久津	昌之	23	化学	徳増	靖記	26	建築	渡邊	弥	29	経済	寒河江	英利	34	機械
鈴木	いづみ	20	英文	春日	常雄	23	数学	行成	洋一	26	建築	小柳	淳	29	法律	砂田	武則	34	建築
澤井	雅之	20	物理	古賀	芳夫	23	法律	小原	光雄	26	法律	石井	精一	29	土木	廣中	誠司	34	物理
大沼	明美	20	法律	高柳	勇生	23	化学	岡田	千津子	26	法律	中山	めぐみ	30	中文	岩崎	真人	34	法律
蔵田	友義	20	電気	森	高一	23	経済	栗原	克己	26	機械	柏原	達之	30	電気	横井	清之	34	経済
岩館	信隆	20	政治	林	忠行	23	法律	長岡	均	26	経済	前田	義弘	30	工化	内田	貴範	34	数学
荒関	正一	20	工化	松原	静郎	23	化学	長島	壽	26	土木	足立	雅章	30	化学	渡辺	徹	34	化学
庄子	友康	20	政治	小笠原	康司	23	土木	笛木	邦郎	26	建築	橋本	公一	30	工化	小黒	常隆	34	電気
大久保	幸雄	20	法律	諸橋	康	23	工化	笛木	敦子	26	建築	宮本	義仁	30	建築	仲野	智	35	国文
沼澤	秀雄	20	法律	金尾	良子	23	化学	村上	茂樹	26	電気	脇山	茂	30	機械	齊藤	正樹	35	化学
末光	正忠	20	心理	吉田	雅俊	23	機械	会田	睦晃	26	数学	廣川	祐司	30	政治	福島	能彰	35	機械
道家	雅子	20	生物	毛利	史子	23	法律	林	正之	26	政治	大澤	隆	30	土木	廣瀬	剛	35	法律
八田	秀夫	20	経済	大平	晃司	23	政治	滝口	亨	26	数学	有沢	誠	30	工化	中村	純子	35	英文
佐藤	明	21	経済	嶋崎	壽勝	23	物理	池上	昌弘	26	法律	高崎	忠道	30	物理	石田	英子	36	生物
遠藤	勉	21	電気	伊藤	隆介	24	物理	岡林	祥一	27	建築	山本	恵三	30	経済	住吉	光介	36	物理
橋本	喜信	21	経済	齋藤	誠	24	電気	西川	裕子	27	化学	高田	保	30	土木	藤村	和正	36	土木
甲田	益通	21	物理	星	義昭	24	物理	吉川	光人	27	法律	高瀬	健次	30	心理	鈴木	清三	36	法律
葛西	祥子	21	心理	岩橋	薫	24	法律	竹内	孝夫	27	土木	土屋	徳寿	30	土木	根岸	史子	36	史学
神田	久	21	工化	岩村	早苗	24	生物	幡谷	雄一	27	法律	石川	能宏	30	法律	高柳	洋子	37	英文
小澤	敏夫	21	土木	星名	隆之	24	経済	佐藤	好男	27	土木	山本	泉	31	物理	小林	護	37	国文
佐藤	一典	21	機械	佐原	満智子	24	法学	谷口	徹	27	土木	志村	喬	31	地理	佐藤	深幸	37	法律
滝島	三男	21	経済	川崎	操	24	地理	内山	正治	27	工化	伊与	登志雄	31	法律	野元	道子	37	経済
出戸	達雄	21	物理	村上	高文	24	土木	村松	博之	27	政治	新居	敦子	31	経済	平山	浩	37	機械
篠	秀一	21	経済	渡辺	啓一	24	機械	平塚	裕子	27	法律	高橋	光香	31	工化	土屋	博訓	37	建築
小池	信男	21	経済	津波	古	24	機械	明橋	敦子	27	経済	若林	由美	31	生物	米山	美景	37	化学
諸隈	成幸	21	土木	池辺	研一	24	機械	河野	容子	27	法律	大西	多久二	31	経済	小山田	佐和子	38	心理
中澤	一	21	経済	齊藤	知弥	25	経済	井上	幸夫	27	社会	杉原	正之	31	法律	越阪部	紀子	38	化学
城田	実	21	土木	李	和樹	25	機械	宮川	純彦	27	化学	武田	雄一	31	物理	平野	陽子	38	建築
安永	雄一郎	21	経済	中村	直英	25	法律	古里	実	27	建築	宇田	誠	31	土木	石井	弘子	38	法律
藤野	岩男	21	電気	伊藤	好夫	25	物理	長谷川	佳代子	27	物理	諸橋	享	31	工化	石樽	光一	38	法律
平	幹雄	22	工化	徳岡	浩	25	社会	鈴木	和世	28	法律	酒井	宏	31	政治	寺尾	誠治	39	史学
鈴木	孝一	22	経済	松本	健二	25	法律	神戸	英雄	28	国文	日向	麻里	32	地理	中島	俊光	39	建築
太田	勝男	22	法律	高山	真人	25	建築	福田	俊策	28	建築	中村	裕子	32	独文	小口	正史	39	政治
末岡	眞純	22	土木	今井	一枝	25	心理	竹内	敏一	28	独文	山崎	哲生	32	機械	平山	英敏	39	中文
隅野	克子	22	法律	戸田	幸雄	25	経済	若井	隆男	28	経済	飯村	学	32	教育	大友	昭彦	39	化学
白石	吉一	22	機械	勝	秀徳	25	物理	黒川	信	28	生物	森下	芳行	32	法律	鈴木	洋松	39	数学
鈴木	宏政	22	機械	田中	紳	25	機械	坂口	育実	28	法律	室岡	克明	32	物理	菊池	英均	39	経済
石川	延男	22	機械	比留川	京子	25	化学	吉田	研二	28	機械	恵谷	真理	32	化学	西澤	徹	40	工化
塩田	実	22	経済	友常	厚	25	経済	吉村	道明	28	法律	植田	和孝	32	法律	松田	昌久	40	経済
岸	修	22	数学	中谷	光弘	25	機械	大谷	功	28	機械	安藤	靖	32	化学	西海	裕之	40	法律
工藤	英治	22	化学	海老原	弘	25	経済	塚本	尋	28	中文	鯨井	敏朗	32	法律	中村	一史	40	土木
中島	俊明	22	化学	高久	良輔	25	経済	古川	昭夫	28	数学	石原	恵一	33	土木	田嶋	重行	40	物理
三石	庸子	22	英文	松本	理	25	数学	酢崎	利夫	28	生物	鈴木	順二	33	工化	飯塚	健人	40	政治
滝口	哲史	22	社会	大竹	年夫	25	法律	大淵	朗	28	数学	森	幸男	33	電気	山本	有香	41	法律
若本	英次	22	建築	中丸	隆	25	工化	飯塚	芳一	29	機械	内野	祐司	33	土木	新井	浩司	41	数学
山端	博	22	数学	恩田	盛道	25	土木	富田	広美	29	土木	山中	義隆	33	経済	寺山	功	41	物理
磯崎	啓	22	工化	長瀬	行雄	25	物理	彦坂	敏之	29	法律	富田	論	33	史学	高越	宏和	41	経済

奥川 計樹 41 物理	中村 良広 42 土木	野一色 恭子 43 政治	大島 潤子 44 中文	後藤 篤史 46 工化
春日部 英輝 41 化学	佐藤 武史 42 化学	濱 利彦 44 都市	堀内 恵 45 法律	三田村 真道 47 農学
河久保 維久 41 法律	栢田 正和 43 史学	石山 ナナ 44 材化	杉村 尚 45 地理	北川 昇 47 化学
鹿山 麻里 41 法律	武田 清志 43 経済	山田 太壺 44 法律	門下 健太郎 45 経済	小野口 敬一 48 都市
菊池 大介 41 法律	森 顕 43 工学	中川 雅世 44 生物	杉山 多美子 45 法律	南 誠志郎 48 機械
黒田 裕康 42 社会	大谷 真介 43 経済	日江井香弥子 44 生物	福永 桜子 46 心理	キュービット美奈子 48 社会

学生支援を目的とする「目的寄付」 *大学名無しは旧都立大学。医は旧医療技術短大、科は旧科学技術大学の略

氏 名 卒期 学科	高橋 清治 9 法学	森 忠保 14 物理	荻原 信吾 24 仏文	飯村 学 32 教育
中村 格士 2 独文	加藤 充子 9 経済	浜田 敏男 16 電気	渡辺 啓一 24 機械	根岸 史子 36 史学
笠巻 弘道 5 機械	斎藤 久雄 9 法学	河井 信 16 経済	伊藤 好夫 25 物理	小林 護 37 国文
山田 直利 5 経済	山本 春夫 10 化学	柏 正博 18 機械	徳岡 浩 25 社会	佐藤 深幸 37 法律
大塚 昶之助 6 法学	伊藤 朋恭 10 化学	中拂 昭史 18 土木	田中 紳 25 機械	西澤 徹 40 工化
村上 直敏 7 法学	小松 芳雄 11 経済	時田 幸男 22 建築	黒川 信 28 生物	後藤 篤史 46 応化
大友 英文 8 機械	高野 六雄 13 機械	阿久津 昌之 23 化学	吉田 研二 28 機械	桑野 嘉市郎 56 工化
内田 道夫 8 化学	鶴岡 実 13 経済	吉田 喜一 23 機械	山本 泉 31 物理	西形 勝宏 医1 放射線

目的を定めない一般的な「維持寄付」 *大学名無しは旧都立大学。医は旧医療技術短大、科は旧科学技術大学の略

氏 名 卒期 学科	中山 弘 7 化学	伊藤 利久 12 経済	末光 正忠 20 心理	大森 保 32 法律
渡部 力 1 物理	高橋 一郎 7 法学	堀部 晋 12 地理	篠崎 卓 20 経済	植田 和孝 32 法律
本郷 馨 2 電気	遠藤 慶三 8 物理	鶴岡 実 13 経済	七条 泰法 20 法律	岩崎 真人 34 法律
田中 和夫 2 土木	矢崎 育子 8 生物	加島 義宏 13 機械	長谷川 健 20 経済	尾上 志保 34 法律
神田 彌一郎 2 経済	小林 孝 8 機械	末武 紘子 13 社会	小池 信男 21 経済	根岸 史子 36 史学
澤村 幸子 2 英文	澤井 佳子 8 法学	石橋 正紀 14 数学	平 幹雄 22 工化	小林 護 37 国文
中村 正雄 2 工化	重原 好次 8 化学	来住 賢一 14 工化	山端 博 22 数学	佐藤 深幸 37 法律
浅原 義久 2 電気	内田 道夫 8 化学	松浦 知彦 15 経済	吉田 喜一 23 機械	森内 真紀人 37 英文
藤本 啓介 2 機械	久崎 力 9 電気	高橋 晃 15 化学	荻原 信吾 24 仏文	平山 英敏 39 中文
高村 多賀子 3 数学	高橋 清治 9 法学	清水 正輝 15 建築	伊藤 好夫 25 物理	峰 ひろみ 39 法律
笹川 和郎 3 建築	宮野 昭 9 数学	浜田 敏男 16 電気	徳岡 浩 25 社会	藤本 京子 39 法律
神山 二郎 3 工化	小島 辰治 10 工化	河井 信 16 経済	滝口 亨 26 数学	福間 庸滋 43 経済
城 健市 3 工化	高橋 光次郎 10 機械	森 素子 16 化学	小西 敬 26 土木	吉田 克己 45 法律
関 郁夫 4 工化	高野 健一 10 経済	高森 貞彦 17 土木	河本 充弘 27 法律	平川 拓洋 46 応化
渡辺 孝昭 4 土木	山本 春夫 10 化学	平林 昇 17 経済	石井 光一 28 経済	後藤 篤史 46 応化
細川 義政 4 機械	東原 繁美 10 経済	佐々木 稔 17 経済	黒川 信 28 生物	野口 賢一 54 政治
山崎 俊男 5 教育	戸田 正之 11 電気	柏 正博 18 機械	森田 真一 29 物理	袖山 榮真 名誉教授
戸田 彰 6 物理	赤津 千鐘 11 経済	中拂 昭史 18 土木	鈴木 実 29 建築	西形 勝宏 医1 放射線
高橋 英雄 6 機械	小松 芳雄 11 経済	山田 典子 18 経済	木下 慶一 30 機械	問川 恵里 医3 理学
牧野 都治 6 数学	高橋 義哉 11 法学	保倉 俊一 18 建築	山本 恵三 30 経済	浦 誠 科1 管理
武居 文彦 7 化学	小宮 衛 12 工化	井出 宣雄 19 土木	若林 由美 31 生物	田中 智 科10 電子

20	19	18	17	16	15	14	12	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	順位
(22)	(16)	(14)	(35)	(43)	(18)	(27)	(10)	(12)	(6)	(5)	(13)	(11)	(7)	(8)	(9)	(2)	(1)	(4)	(3)	大学院名
同	東	九	岡	創	上	大	北	名	大	神	千	早	中	首	愛	京	一	東	慶	大学
志	北	州	山	山	阪	阪	海	古	阪	戸	葉	田	央	都	知	都	橋	京	應	院
社	北	州	山	山	阪	阪	海	古	阪	戸	葉	田	央	都	知	都	橋	京	應	名
190	173	162	70	88	174	106	150	120	140	125	65	479	442	96	28	246	123	357	354	受験者数
42	39	39	17	22	46	35	50	40	51	46	24	184	177	39	12	129	67	197	201	合格者数
22	22	24	24	25	26	33	33	33	36	36	36	38	40	40	42	52	54	55	56	合格率
11	54	07	29	00	44	02	33	33	43	80	92	41	05	63	86	44	47	18	78	(%)

■法科大学院別の合格者数

20位まで。順位()内は昨年の順位。

法科大学院修了者を対象とした2013年の司法試験の合格者が9月11日に発表された。

全体の合格率は26.8%で、昨年の25.1%をやや上回ったが、その中で首都大学東京は96名が受験し39名が合格した。合格率は40.63%で、合格率での順位は74校中6位と大健闘でした。

司法試験74校中6位で合格率は40%を超える

訃 報

ご逝去された名誉教授の方々および事務局にお知らせのあったご逝去された同窓の方々を謹んでご報告申し上げ、心からの哀悼の意を表します。

氏 名	所 属	逝去年月日	氏 名	所 属	逝去年月日
徳 田 種 樹	名誉教授(理学部教授)	2012.05.04	大 串 國 弘	都05・工学・土木	2012.12.23
森 重 敏	名誉教授(人文学部教授)	2012.03.14	横 川 清	都10・理学・化学	2012.12.09
川 野 洋	名誉教授(科学技術大学教授)	2012.12.18	内 海 純 一	都12・法経・経済	2013.04.08
塩 崎 進	名誉教授(工学部教授)	2013.06	野 村 英 一	都03・人文・経済	2013.03.27
野 村 好 弘	名誉教授(法学部教授)	2013.07.22	深 沢 芙美子	都07・人文・史学	2012.12.12
泉 三 義	名誉教授(経済学部教授)	2013.08.11	石 塚 正太郎	都09・工学・機械	2011.12.24
小 林 賢 次	名誉教授(人文学部教授)	2013.06.29	月野木 力	都06・法経・法学	2013.03.27
高 橋 晃	都15・理学・化学	2013.04.21	石 垣 千 早	都14・人文・社会	2009.05.18
佐 藤 正 光	都05・人文・経済	2013.05.09	近 藤 忠 孝	都03・人文・法学	2013.06.05
笠 卷 弘 道	都05・工学・機械	2012.	安 藤 守 男	都22・工学・機械	2013.06.05
神 野 得 守	都01・工学・電気	2013.03.22	内 山 利 昭	都22・工学・電気	不詳
斎 藤 岩 吉	都12・理学・数学	2012.10.02	井 上 讓	都10・工学・電気	2013.02.18
村 上 直 敏	都07・法経・法学	2013.04.27	中 村 格 士	都02・院人・独文	2012.07
玉 川 喜 男	都03・人文・経済	2007.12.22	長 久 誠	都04・工学・機械	2013.06.13
紋 田 實	都04・院理・物理	2013.02.07	斎 藤 献	都07・工学・機械	2013.06.25
島 村 義 一	都07・法経・法学	2012.05.17	福 間 庸 滋	都43・経済・経済	2012.05.20
遠 藤 裕 造	都12・工学・建築	2012.12.17	宮 川 知 之	都43・経済・経済	2013.08.07
中 西 茂	都02・理学・生物	2012.04.11	花 田 滋 夫	都12・法経・経済	2013.09.02
神 原 靖 侑	都04・理学・数学	2012.11.25	神 田 実	都18・工学・工化	2013.05.05
梶 谷 勝 一	都08・工学・電気	2012.12.27			

近藤 忠孝さん
(3期・人文・法律)の
ご逝去を悼む

関西支部は昨年の大久保初代会長に続き、今年、近藤2代目会長を失いました。葬儀の席で流れる画像は、イタイイタイ病の弁護活動や参議院議員としての活動でしたが、私達にとつては同窓会活動での献身的な行動を忘れることが出来ません。関西支部が活動を再開して20年、最初の10年は大久保会長のもとで事務局長を、次の10年は支部会長を務められました。当時は近藤さんの事務所の女性の助けを借りて宛名書きをするなど、将に物心ともに関西支部を支えて来られました。幸い2年前に役員の若返りが図られ、今年3月新役員による初めての「関西支部の集い」が披かれ、その席で新しい門出を祝福して頂きました。近藤さんの意志は我々が引き継いで、今後とも関西支部の灯が消え無いうように頑張りましょう。近藤さん本来にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

関西支部副会長・松見 豊和
(12期・経済)



左から伊地知、吉田、Dr.J.Wilhelm、Prof.Heine、
笹川、光藤

母校にとっても大変に有意義であります。これを機会に、ドイツ圏の大学との交流を深める足がかりとして、TMUの国際化が促進することを希望します。

笹川 和郎（都03・工学・建築）



人文二期の会

2013年度の東京都立大学旧人文学部〈2期生の会〉を10月8日(火)正午から開催した。会場はNHK青山荘（東京青山）。

1950年入学、1954年卒業、または入学か卒業時期のどちらかを共有する方々を対象に呼びかけてスタートしたのが1995年(平成7年)7月7日で、この時の出席者は43名だった。

今年は、以来14回目目の〈2期生の会〉。出席者は23名を数えたが、今年も4名のご逝去を報告しなければならなかった。

杖をつくようになったり奥様と同道で会場を訪れる者もふえた。

みな超高齢者になってしまったが、それぞれの近況を元気に述べ、にぎやかに歓談を重ね再会を約して散会した。

写真はアルコールが入る前の出席者である。

平田 悦朗（都2・人文・経）



八雲三六会

今年も毎年恒例の八雲三六会（理・化9期同期会）が10月8日、古刹・名刹に囲まれた「鉢の木」（北鎌倉）で、34人の会員中16人が参加して行われた。古希を過ぎ喜寿も迎えようとしている一同だが、定刻には全員が顔を合わせ、一年ぶりの再会に顔をほころばせている。

昼食をともにしながらの2時間、毎年の例に従って、各自の近況の紹介となった。出席者の3分の2を占める男性の話題は健康管理と持病対策が中心だったのに対し、女性側からは日常生活の報告はあったものの、持病や健康の話は出ない。女性の方が健康で長生きの証左かもしれない。

卒業後半世紀以上を過ぎ、全員後期高齢者なのに、同期の集会とは妙なもので、顔を合わせる度に50年前に連れ戻され、全員青春を取り戻すらしい。

昼食後は途中建長寺や鎌倉八幡宮に立ち寄りながら鎌倉駅まで2キロ以上の散歩を楽しみ、いつものように集会の締めは駅近くの喫茶店での歓談が続く。

過去の会合では京都・三島と地方在住者の居住地でも開催していたが、来年は長野県松本での再開を約して家路に着いた。

根谷崎武彦



2013年八雲三六会（2013年10月8日・北鎌倉 鉢の木）

自費出版書のご紹介

ここにご紹介する本は、同窓会宛に寄贈されたものです。

吉田 清美著

「汚水から未来を拓く」

—長野汚水処理携記—

下水処理事業の現場から

B6版・280ページ・上製

都立大学の電気工学科を1977年に卒業された著者は、長野市役所で長年にわたり汚水処理事業に携われました。

本書は著者が現場での体験や研究によって得られた記録をまとめたものです。

ご覧になりたい方は、同窓会事務局宛にお問い合わせください。



Wien 大学日本研究所で講演会開催

首都大学東京関係者の N P O 法人 MeC は研修旅行として、昨年は東日本災害地の視察と支援を行いました。今年は旅行範囲を世界に広げました。

2013 年 5 月に Wien と Berlin に旅行をしました。



日本研究所入口のノレン

参加者は笹川和郎・伊地知季顕（都立大・工・建築 4 期）、光藤康子（同・社会・院・9 期）、吉田俊雄（同・理・数 19 期）です。今回の研修旅行の最大の行事は母校 TMU の国際化に協力すべく“Wien 大学日本研究所で講演会開催”することにしました。

元来、Wien 大学日本研究所は第 2 次世界大戦前に、後の都立大学教授である柳田国男の直弟子の岡 正雄

先生が設立したことから TMU と深い関係があります。Wien 大学と TMU とは交換留学生の協定があり数人の留学生が在籍しています。私個人として、Wien は若い時代の留学先であり、ここの日本研究所には何かと



Wien 大学制作の講演会用ポスター

お世話になっていました。懐かしい思い出の日本研究所です。

その様な理由から Wien 大学を講演対象に選んだ訳ですが、今後母校 TMU との交流を深めるために、講演の前に TMU から Wien 大学への親書伝達のセレモニーを行いました。親書は都市教養学部長・岡部 豊教授から Wien 大学哲学部長（人文学部相当）宛です。

講演内容は“東洋一と言われた足尾銅山の光と影”に関する講演です。

日本学をこれから学ぼうとする学生に対して、

- ① 日本が明治初期に欧米からアジアで初めて新技術を導入して、
- ② それに日本独自の技術を加えて工業国として発展させたこと。
- ③ 更に産業に伴う公害問題解決にも当初から取り組んでいた。

などです。以上の 3 点を知ることは日本の現在の社会を研究するための背景を知るために大切であると考えたからです。

この明治初期の足尾銅山の開発から、現在も続いて



講演中のスナップ

いるこの地区の公害対策に関して NHK 制作の映画がありますので、これにドイツ語の解説を加えての講演を行いました。この映画は TMU と深い関わりがあります。足尾出身の小野崎 敏氏（元釜石日鉄鉱業社長 都立大・工・工化 5 期）が資料提供と映画の編集に深く関わってこの映画が完成したからです。小野崎氏は祖父の撮った 2000 枚の足尾銅山関連の記録写真を所有して、足尾市の名誉市民として足尾銅山産業遺産の保護と山の植林などの自然保護に活躍しています。Wien 大学はドイツ圏最古の大学であり、多くのノーベル賞受賞者を輩出した世界大学ランキングでも上位にあります。岡教授自慢の孫弟子がドイツ圏の日本研究の第一人者となっています。

このような名門大学と交流を深めることは我が



ちしています。2014/7/26(土)を予定しています。
 嘉向 嘉伸(都18・経済・経済)
 メール:kamuki.1203@softbank.ne.jp

第3回バレーボール部同窓会を
 本学の南大沢で開催しました

まだ梅雨が明けきらぬ6月29日、TMU国際交流会館で現役と一緒に男女合わせて総勢55名で第3回バレーボール部同窓会を開催しました。当日は午前中体育館で現役・OB交流戦、午後は総会・懇親会という2本立てでしたが、終始和気藹々とした雰囲気の中で行われ、大変有意義な1日を過ごすことができました。

ところで、毎年発行される同窓会誌「TMU」を見ますと、数ある同窓会でも現役と一緒にプレーしたり懇親会で一緒に歓談したりするというのはそう多くな

いように見受けられます。2年に1度開催して今回で3回目ですからもう6年続いており、だんだん伝統になってきました。とは言ってもOBと現役が完全に打ち解けるまでにはまだ至っておりませんが、回を重ねるごとに距離が近づいているように思います。

私どもOBの考えとしては、現役も4年後には同窓会に入るのだから今から仲良しになっておきたいというのが基本にあります。少子高齢化と言われる昨今、同窓会も高齢化が進んできており、若いOBの活躍が不可欠です。現役が活躍する関東リーグ戦や府大定期戦には積極的に応援に行くようにしていますが、心なしか現役のプレーも以前より生き生きしているように見えます。今後同窓会としては、OB同志の親睦をメインにおきながらも現役に十分配慮するというバランスのとれた運営をしていきたいと考えております。

文責 平沢 廣光(都12・理学・物理)



第3回バレーボール部同窓会

ア本因坊」の顕彰を受けた（全国で5人）。同年、金子先生は日本棋院から普及活動最高の荣誉である「普及功労賞」を受賞された。

想雲会は現役学生との交流も重要な行事。合宿の相互参加、年1回八雲クラブで学生を招待しての交流基金会など連綿と続いている。

私も喜寿の年齢になるが、より高齢でお元気な金子先生を見習いたいところ。時には南大沢まで出かけて指導もするし、2011年は2泊3日の箱根合宿に参加した。十数人の参加だったが、皆まじめで熱心。昔と違ってアルコールを一滴も求めないのには感心した。

静岡県高校教師を長年勤めた高林秀吉君（1965 理卒）の縁で、高校生と先生方の指導に15年以上行っている。今回参加した富士高の顧問教諭は、昔同校で夫人ともども高林先生の指導を受けた生徒とのこと。現役首都大部員に富士高囲碁部OBがいるが、年代が違うので高林先生のことは知らない。知らなくても師から生徒へ、また次の代へと引き継がれて行く。これはたまたま知った一例にすぎないが、囲碁の伝統文化が伝えられ、人の輪がひろがり引き継がれて行くことが嬉しい。

遠隔地等で想雲会に来られないOBの方々も折あればご参加され、旧交を温められたらと思います。

原田 実（稔）(都08・法経・法学)

(連絡先) …想雲会幹事 金子 090-9133-8806

〃 長内 080-6708-0482



21 回七機会

1992年の天安門事件発生の日（6月4日）に始まった7期生機械科のクラス会も、今年で21回目。7月7日、今年も八雲クラブに21名。毎年の事だが、連絡担当の諸幹事に感謝したい。今年はハガキ送付先から無事の便りだったので、【黙祷で始まるクラス会】にはならないと思っていたが、入院中の斎藤献君が七機会当日（7月7日）を迎える12日前に他界した・と奥様から幹事に電話があった。病院で書いた「町田市民病院に入院中です」が絶筆となりました。

卒業以来の物故者は12名となってしまった。黙祷し、献杯。会は何となく始まり、現況報告が終わると自然に閉会となる。

八雲クラブは渋谷の中心地。メンバー全員が後期高齢者となった今、電車を乗り継ぎ、長い坂道、階段、雑路の中を縫って出席するには、相当の体力、気力が必要になってきた。欠席理由の多くは、体調不良。渋谷までたどり着く体力なしとも。

アベノミクスの影響か、出席者は元気。流石に半現

役は2人だが、遊び現役は大勢、毎年1ヶ月、娘・孫に会いにスペインへ（吉田実男）、町の行事の世話役（吉田廣文）、有難いのは、年1回外遊、現地ワインを会に持参・今回は渋谷で調達（長谷川）、銘柄ものの泡盛古酒持参（渡邊）、さらにボランティア活動として、日本科学未来館で週1日（齊藤明宏）、都立神代植物公園のガイド（君塚）。時には訪れて活躍を確かめられたい。ペタンク前年度優勝で遅れて参加の先生。（笹原）

長距離出席者補助（交通費）も無くなったが、最遠地からの出席は、知多市から波多野。広島・廿日市市から重住。大阪府・河内長野市から天雲・金沢市から西端と多数。元気を貰いたい人。

文中敬称略（西端 敏・君塚 宏 記）



硬式庭球部恒例のOB・OG会

今年の前半、私の身边では47年来の友人でエジプトで亡くなった同期の柘植君と17年来の愛犬の死というつらい出来事がありました。その一方、7/27（土）に開催した硬式庭球部OB・OG会には50名を数えるOB・OGの参加を頂き、盛会のうちに終えることが出来ました。

今回はニューカマーのお誘いとお顔を出して頂けない方々への誘い（いざな）です。

この会が初めて開催されたのは17～18年前です。現役との試合だと心臓がバクバクと破裂してしまいそうなので、OLD・OB・OG会としました。私はあと数年で古希を迎える身となり、足・腰も思い通りに動かなくなりつつあります。2008年以前卒業のOB・OGはぜひ来年はコートに足を運んでください。またこの記事を読んだらすぐに私宛にメールをください。

まだ参加されたことのない方や、過去に1～2回コートに足を運んでくれた方々は、下の写真をご覧ください。皆テニスに懇親会に一日をフルに楽しんでくれています。敷居は高くありません。コートか学食に顔を出していただければ貴方・貴女はOLD・OB・OG会のメンバーです。来年の我々への仲間入りを心よりお待ち



り、同じく李君が記録係を担当、懇親会へ繋げた。「先輩に聞くコーナー」ではMeCの高見沢理事長と末光理事の講話とQ&Aに始まり、次々と参加諸先輩達の自己紹介を兼ねての経験談に、時間をオーバーしての納得の感動があった。続いて学生達の「キャリアマップの作成」。これは副題でもある「キャリアを考えてみませんか?」ということ。皆自分の将来の事でもあり真剣に取り組んだ。

卒業後の進路(職業)が明確な学生は、マップも実に現実的であり、骨組みもしっかりし、我々を十分満足させる出来であった。これからが楽しみである。さて懇親会は食事をしながら「ビンゴゲーム」。全員参加のもとに行われ、老若男女、少年少女時代に盛り大いに盛り上がった。つまり大騒ぎである。先輩と学生が一つになった楽しいイベントであった。最後に食料の調達方法や後始末の仕方などクラブ利用のルールをしっかりと学生達に指導説明伝達をし、次回に繋げた。秋頃に第2回を計画中である。乞うご期待!!先輩達の参加を望む。

久崎 力(都09・工学・電気)



理学部物理学科4期久しぶりに集まる



物理4期同期会

傘寿を超えた年齢となり、集まろうとの声があり、

2013年5月30日に東京麻布十番の中華料理・桂亭にて物理学科4期のクラス会を開催しました。

卒業時には昼夜間合わせて19名でしたが、すでに鬼籍に入られた方、所在不明の方も多く、必ずしも十分な連絡が出来なかったのが残念です。それでも、足立精三、石渡敏博、篠原泰司、深野松三の4名が出席し、近況報告、家族の消息、思い出話等々話題に途切れることなく、アツと言う間の楽しいひと時でした。

混沌とした世情に、高齢者にとっては厳しい状況ですが、お互いに体調に十分な配慮をしながら、頑張っで行こうと、再会の日を楽しみに散会しました。

深野 松三(都04・理学・物理)



囲碁部同窓会一想雲会の伝統、現役学生との交流

1955年、私が都立大に入學して間もなく囲碁同好会(後の囲碁部)が創設された。木島洋治先輩(1957卒)の音頭で、愛好者が20人ほど集まり、食堂の片隅で板盤をひろげて毎日活動した。同年秋には関東大学リーグ戦にも参加するようになった。



夏の大阪府立大定期戦にも参加。鈍行夜行列車で板盤で楽しむ、のんびりした時代だった。合宿は静岡県沼津にあった牛臥寮で海水浴を兼ねるのが恒例だった。顧問の故沼田稲次郎教授(後に総長)も時々来られ、酒食をふるまったり、激励ご鞭撻をいただいた。

部活動は活気があり、関東大学リーグ二部で優勝、一橋大との入替戦も制して一部に昇格した。私個人も学生本因坊戦を1958年、59年と連続全国制覇できた。

何千年もの歴史がある囲碁は、男女、年齢に関係なく楽しめる有難い知的ゲーム。沼田先生の影響もあってか、教職員の間でも盛んになり、OB会は現職の先生方も合同で楽しむようになった。沼田先生の命名で「想雲会」(八雲を想う会)が発足し、豪放磊落な先生の下で楽しく大いに栄えた。

沼田先生の後には金子ハルオ教授(当時)が引き継がれ、教職員やOBの大学親善対抗戦に参加、想雲会を財団法人日本棋院の支部に仕立てあげられた。

私は卒業後は高度成長期の多忙な中で練習不十分ながら、本因坊戦・名人戦の二大棋戦で11回も全国優勝できた。その基礎は都立大時代の修練の賜だった。2008年に囲碁界最高の賞と言われる「大倉喜七郎賞」を受賞、2010年には毎日新聞社から「名誉アマチュ

TMU PLAZA

都立大学・理・化4 回生「ふかさわ会」例会を開催

毎年行っている懇親会は、恒例の旅行や観覧がだんだん難しくなり、今回は昼食会を開催しました。総勢21名のところ出席者は11名でした。今年は仲間全員が80歳を迎えました。健康上の理由その他もろもろ年相応の事情があるものの、出欠の返事の葉書の現況報告を読んで出席者全員お互いの顔を見合わせ、ほっと一安心というところでした。

今回は、京王プラザホテルのグラスコートでバイキング形式の昼食会を開催しました。11時45分開始、終了は制限時間一杯の15時でした。和洋中華と料理は様々でしたが、皆さんそれぞれ好みに合わせて良く召し上がっていました。いい年をしてバイキングとは思いましたが、ビールを飲みながら、好みに合わせて食べられるのが好評でした。

全員が近況報告と質疑応答、時事放談など話が弾み、学生時代そのままのおしゃべりで時のすぎるのを忘れ、賑やかで楽しい時間を過ごしました。

会報「ふかさわ」は続けて発行してゆく事、懇親会は毎年春に行うことなど、会の運営についても話し合い、再会を約し、記念写真を撮って解散しました。

野原 剛 (都04・理学・化学)



化学科4 期同期会

初めて参加した東急八雲会

東急八雲会は首都大学東京を卒業し、東急グループ各社で活躍している社員、OBの方々を含め、28社141名の会員から構成されている同窓会組織です。私も今年度から東急八雲会の一員となりました。

2012年度の東急八雲会は2月25日に渋谷エクセルホテル東急にて開催され、約40名が参加しました。当日は幅広い層の方々からグループ会社の近況報告や、急遽1分間スピーチが始まるなど、非常に盛り上

がり、あっという間に閉会時刻となりました。

東急八雲会では、各職場の第一線でご活躍されている先輩方や活気あふれるOBの方々と交流することができました。お話をさせて頂いた皆様が自信を持って、そして首都大学東京のOBとして“胸を張って働いている”と語られている姿を目の当たりにし、私も自分の仕事に誇りと自信を持って一生懸命頑張ろう！と新たな決意をしました。

また東急グループ各社へと広がったネットワークを通じて様々な年代の諸先輩方と交流ができると共に、幅広い考え方に接することができ、非常に良い刺激がありました。

諸先輩方とお話をさせて頂ける次回の東急八雲会の開催を今から待ち遠しく感じています。

志田 良太 (首都大・2013年卒)



MeC 第一回先輩と在校生との交流会

昨年のTMUにも載っていた渋谷の一等地にある、かの有名な素晴らしい同窓会施設「八雲クラブ」で第一回の「学生との交流会」が催された。この交流会が開催された理由は、ある学生達からは「せっかく優秀な先輩が多くいるのに何も世話をしてくれない」との不満が、一方OBからは「何か役に立ちたいと思うのに支援するチャンネルがなかなかない」との、双方の不満に対応するためのものであった。

首都大(都立大)のOB・OGを主体とするNPO法人MeC (Metropolitan Careers)は社会貢献を目的として設立され、在校生への支援も、主要目的であった。しかし、思うように効果的な活動は実現しにくかった。また、毎年実施されている「同窓会寄付講義」では講演後、学生から質疑応答の時間を設けることになっていた、その中での相談から交流会の必要性を感じたのである。それが今回の第一回交流会の糸口となった。

当日は学生13名、先輩10名が集まり、午後1時から夜8時まで交流会・懇親会と順調な滑り出しとなった。前半の交流会は経営系学生の堀内君の司会で始ま

首都大学東京同窓会 会計報告

財務委員長 吉田 俊雄

第9期決算 (一般会計)

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日 単位:円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	51,155,082	会報制作費	5,264,368
入会金	20,260,000	会報発送費	4,486,367
維持会費	6,741,000	会員情報管理費	2,618,569
総会・新年会費	1,306,500	会議費	1,089,637
預金利子	15,826	総会・新年会費	1,622,158
雑収入	50,000	通信費	478,224
繰入金	2,555,000	学生支援費	2,903,449
小計	30,928,326	事務費	514,432
(前年度繰越金を除く)		人件費	5,724,840
		八雲クラブ運営費	864,000
		八雲クラブ賃借料	2,360,000
		イベント費	374,930
		組織強化費	405,085
		雑費	121,155
		振込手数料等	829,901
		事務所使用料	370,432
		OA環境整備費	1,210,298
		入会促進費	1,164,739
		予備費	
		小計	32,402,584
		当年度過不足額(収入-支出)	▲1,474,258
		次年度繰越金	49,680,824
合計	82,083,408	合計	82,083,408

第9期決算 (特別会計)

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日 単位:円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	0	払込票制作等	393,069
目的寄付	555,000	一般会計への繰入金	2,555,000
維持寄付	1,222,000	小計	2,948,069
維持寄付(終身)	4,155,000	当年度過不足額(収入-支出)	2,983,931
小計	5,932,000	次年度繰越金	2,983,931
合計	5,932,000	合計	5,932,000

財産目録

(2013年9月30日現在)

資産の部		単位:円
現金	手許在高	141,323
普通預金	(内基本金)	102,712,692
	みずほ銀行 南大沢支店	(50,000,000)
	三菱東京UFJ銀行 多摩センター支店	91,762,662
	10,950,030	
郵便振替口座	首都大学東京同窓会	28,240
造作	八雲クラブ借室改修費用	0
投資有価証券	(株)都立大学同窓会サービス 株式(1,750株)	87,500,000
資産合計		190,382,255
負債の部		
前受会費	繰越終身会費	25,503,000
リース残高	積水リース株式会社	426,804
前受金	記念イベント会費53件	217,500
負債合計		26,147,304
差引正味財産		164,234,951

(備考) 繰越終身会費は、10年で償却受け入れ

会計監査の結果、上記の報告は 監事 大熊 洋一 ㊟
適正であることを認めます。 同 十河 維 ㊟
2013年10月31日 同 古川 順光 ㊟

本会計報告は2013年12月12日(木)開催の評議員会に報告され審議されることになっています。

第10期予算 (一般会計)

自 2013年10月1日 至 2014年9月30日 単位:千円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	49,680	会報制作費	5,460
入会金	20,200	会報発送費	4,620
維持会費	6,735	会員情報管理費	3,000
総会・新年会費	610	会議費	1,350
記念イベント	675	総会・新年会費	978
預金利子	16	記念イベント	877
雑収入	50	通信費	400
繰入金	5,800	学生支援費	3,550
小計	34,086	事務費	450
(前年度繰越金を除く)		人件費	5,450
		八雲クラブ運営費	864
		八雲クラブ賃借料	2,280
		イベント費	420
		組織強化費	710
		雑費	140
		振込手数料等	830
		事務所使用料	370
		OA環境整備費	465
		入会促進費	1,280
		会費納入促進費	310
		予備費	282
		小計	34,086
		当年度過不足額(収入-支出)	0
		次年度繰越金	49,680
合計	83,766	合計	83,766

第10期予算 (特別会計)

自 2013年10月1日 至 2014年9月30日 単位:千円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	2,983	払込票制作等	600
目的寄付	3,550	データベース改定	110
維持寄付	1,300	一般会計への繰入金	5,800
維持寄付(終身)	1,660	小計	6,510
小計	6,510	当年度過不足額(収入-支出)	0
		次年度繰越金	2,983
合計	9,493	合計	9,493

八雲クラブ特別会計第9期収支決算報告書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日 単位:円

収入の部		支出の部	
前年度より繰越金(A)	3,017,303	(今年度支出)	
(今年度収入)		印刷発送費	1,450,567
会員・会費収入	1,393,200	サロン運営費	371,294
サロン参加費	412,000	講師謝礼	95,000
ビジター利用料	348,920	人件費	479,000
ゴミ処理負担料	0	交通費	116,200
雑収入(預金利子他)	0	通信費	61,476
一般会計助成金	864,000	清掃費	52,500
小計(B)	3,018,120	手数料支払など	80,430
		雑費	114,338
		八雲クラブ委員会費	38,850
		振込手数料	1,995
		小計(C)	2,861,650
		今年度損益(D=B-C)	156,470
		次年度繰越金(E=A+D)	3,173,773
合計(A+B)	6,035,423	合計(C+E)	6,035,423

次年度繰越内訳 三井住友銀行渋谷支店 2,969,295
神南郵便局振替口座 12,400
手元現金 192,078
計 3,173,773

会計監査の結果、上記の報告は 監事 大熊 洋一 ㊟
適正であることを認めます。 同 十河 維 ㊟
2013年10月31日 同 古川 順光 ㊟

貸借対照表

(2013年1月31日現在)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
	円		円
流動資産	30,485,557	流動負債	870,119
現金及び預金	30,485,557	未払金	8,119
固定資産	58,634,939	前受金	600,000
・有形固定資産	58,562,139	預り金	1,900
建物	7,588,459	未払法人税等	260,100
土地	50,973,680		
・無形固定資産	72,800	負債の部合計	870,119
電話加入権	72,800		
		純資産の部	
		株主資本	88,250,377
		(資本金)	87,500,000
		資本金	87,500,000
		(利益剰余金)	750,377
		繰越利益剰余金	750,377
資産の部合計	89,120,496	負債及び純資産の部合計	89,120,496

貸借対照表注記事項

原価償却累計額 29,550,261円

損益計算書

自2012年2月1日 至2013年1月31日

経常損益の部	
営業損益の部	
【純売上高】	
貸室収入	単位：円
売上総利益	2,400,000
【販売費及び一般管理費】	2,077,530
営業利益	322,470
営業外損益の部	
【営業外収益】	
受取利息	7,421
雑収入	7,421
経常利益	329,891
税引前当期純利益	329,891
法人税等	261,581
当期純利益	68,310
前期繰越利益	682,067
当期末処分利益	750,377

販売費及び一般管理費

自2012年2月1日 至2013年1月31日

科目	金額
管理費	504,600 円
警備費	340,698
減価償却費	553,144
修繕費	0
事務用品費	0
消耗品費	0
水道光熱費	147,359
旅費交通費	81,800
手数料	115,815
租税公課	207,200
保険料	14,130
通信費	112,784
新聞図書費	
合計	2,077,530

利益処分計算書

単位：円	
【当期末処分利益】	682,067
【次期繰越利益】	750,377
上記の通りご報告申し上げます。	
2013年3月27日	
株式会社 都立大学同窓会サービス	
代表取締役	石橋 穠治
取締役	君塚 宏
取締役	末光 正忠
取締役	横川 邦明
取締役	杉村 哲雄

会計監査の結果、上記の報告は適正であることを認めます。

監査役 吉田 俊雄
監査役 松本 傳

首都大学東京同窓会・広報委員会
会報編集委員

加藤 充子(都9・経済)
小原 弘道(都3・機械)
黒川 信(都28・生物)
小宮 衛(都12・工化)
関根 紀夫(都1・放射)
根谷崎武彦(都10・化学)
野原 剛(都4・化学)
村山 祥彦(都5・経済)

編集後記

ブエノスアイレスで2020年東京オリンピックの開催が決定したところ、本誌の編集作業も着々と進んでいた。今号の編集では記事中の年号記述の基本方針を西暦主体とした。前号までも、編集サイドでの発信記事は極力西暦記述としていたが、寄稿記事は積極的に西暦表示に書き改めることはしていなかった。和暦で明治29年と書かれていても、それが何年前なのかすぐにはわからないが、1896年と書かれていれば直ちに17年前の出来事であることが計算できる。

会誌編集が大詰めが近づいたころ、日本中がオリンピックの話題で舞い上がっていた。少年時代、遊びほうけて家に帰ると親から「ほかにもつとしなければならぬことがあるだろう」と言われた思い出と重なった。(根)

2014年度首都大学東京同窓会 総会・新年会

首都大学東京同窓会は、設立10年目を迎えます。この間会員の皆様の心強い支援によって同窓会は大きく発展してまいりました。2012年の総会で承認された同窓会の運営方針、「学生への支援、大学との協力、会員相互の交流、他大学また近隣との親善」を掲げて数々の事業を展開し進展を続けております。

第10回の総会・新年会は、青い海と青い空が目の前に広がり、レインボブリッジが眼前に聳える、ベイサイドエリアにあるホテル「アジュール竹芝」で開催します。

会員の皆様には、同期やゼミの仲間と連絡され、お誘い合わせのうえ、ご参加いただき、懐かしい青春、新たな出会いで交流を深めてください。

- ◆日時 2014年1月26日(日) 受付開始時刻 13時30分
開催時間 14時より17時まで
- ◆場所 ホテル「アジュール竹芝」 住所 東京都港区海岸1-11-2
TEL. 03-3437-2011(宿泊予約) 宴会係 03-3437-5566
- ◆会場 13階 総会・新年会 「飛鳥の間」
- ◆会費 当日申込：1人 7,000円(ご夫婦 12,000円)(当日会場受付)
事前申込：1人 6,500円(ご夫妻 10,000円)

□事前申込される方は、会報に同封された「新年会参加払込票」で2014年1月15日までに「ゆうちょ銀行(郵便局)」に振り込んでください。名札をご用意いたします。総会だけの出席は無料です。*納入いただいた会費は、欠席でも返金をご容赦ください。

□昨年同様の新年会同様、団体申込を受け付けますのでお仲間に声をかけてのご参加をお待ちしています。5名～9名はお1人6,000円、10名以上は5,500円です。12月15日まで受付中です。団体申込は参加者名簿を事務局に送るだけです。詳細は下記ホームページをご覧ください。

◆プログラム

- 14時～14時45分 総会：決算、予算、新理事の承認、事業計画など。
- 15時～17時 新年会：懇親、賀詞交換など。



◆交通

- ・JR山手線・京浜東北線
浜松町駅北口より竹芝栈橋方向へ徒歩7分
- ・羽田空港からモノレール利用で浜松町まで23分
- ・都営浅草線、大江戸線の大門駅B1出口より徒歩8分
- ・東京臨海新交通 ゆりかもめ竹芝駅より1分

問合せ先

首都大学東京同窓会事務局・同窓会イベント委員会
TEL.FAX. 042-670-7702 Eメール: tmu-al@tmu.ac.jp
同窓会ホームページ
<http://www.comp.tmu.ac.jp/dousoukai/>

TMU 第9号 2013年11月20日 発行

発行 首都大学東京同窓会
〒192-0364 東京都八王子市南大沢1-1
直通 TEL・FAX 042-670-7702
TEL 042-677-1111(代)(内 2181)
電子メール tmu-al@tmu.ac.jp
ホームページ <http://www.comp.tmu.ac.jp/dousoukai/>
郵便振替口座 00150-0-426678

印刷 京浜印刷株式会社
〒140-0013 東京都品川区南大井4-7-3
TEL 03-3763-7321
FAX 03-3764-6839